

車体 NEWS

WINTER 2012 冬

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.



CONTENTS

巻頭言	2
NEWS 特集	
秋季会員大会	3
2012年度欧州視察報告	7
車体工業会会員の売上高及び従業員数調査まとめ	11
検査法人説明会	12
NEWS FLASH	
本部だより	13
部会だより	16
支部だより	19
官公庁だより	20
月度活動状況	23
会員情報	26
Net Work	
vol.69 富士車体工業(株)	27

VOICE	
(株)松沢商会	29
信和自動車工業(株)	30
そこが知りたい	
超小型モビリティとは？	31
Coffee Break	33
我が社の元気人	35
DATA FLASH	
2012年4月～9月 会員生産状況概要	36
編集後記	39



グリーン購入法では
環境にやさしい取組みをしている
トラック、バス、タクシーの利用が
求められています。

■グリーン購入法とは、環境負荷の少ない製品・サービスを普及させることを目的に制定され、19年度に宅配便などの輸配送（トラック）、20年度に貸切バス・タクシーが調達品目に追加されました。

運輸部門のグリーン経営認証

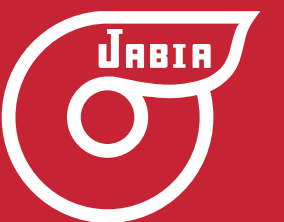
トラック、バス、タクシー、倉庫、港湾運送、内航海運、旅客船の事業ごとに「環境にやさしい取組みをしている運輸事業者」を認証する制度がグリーン経営認証です。国土交通省および各業界団体の協力を得て、エコモ財団が推進しています。

エコドライブや自動車の点検整備などの具体的な環境活動が評価され、7,000事業所以上が認証を取得しています。

中小企業でも取組みやすく、燃費向上はもとより、社員の意識改革のツールにもなっている実効性の高い制度です。

- トラックの認証取得事業者の平均燃費は全国平均より29.7%良い水準です。
- 登録事業所（トラック、バス、タクシー）の保有している車両台数は、20万台を超えています。

グリーン購入法に適合する
グリーン経営認証が
選ばれています。





DREAM WORKS!

その荷を待つ人の喜びのために。
私たちの、トラックボディーに託す熱い思い。

"Safe and Reliable Transport Vehicles"

"Powerful yet Comfortable Transport Vehicles"

These are the what we make at the Hamana Works. Now let's take
a look at these vehicles which we make with confidence and pride.



株式会社 浜名ワークス

静岡県浜松市浜北区上島1700番地の1

TEL. (053) 583-1234 FAX. (053) 583-1212

URL <http://www.hamana-works.co.jp>

巻頭言



日本の「強いものづくり」を守る

副会長 白根 武史
トヨタ自動車東日本(株)・取締役社長

日本のものづくりが培ってきたもの

日本は、歴史的に振り返ってみても、ものづくりに秀でた文化を有しています。日本人が持つ細やかな感性や手先の器用さをベースに、一人ひとりが自分で考え、工夫して、高い技能を身につけようとする気概と、最後までモノをしっかり造り込む姿勢、そして匠の技が連綿と受け継がれています。

宮城県のある町に、約100年前に導入した織機を今でも大事に使いながら、柔らかな風合いが特徴の綿布をつくり続けている方がいらっしゃいます。ご主人自ら機械のメンテナンスや補修部品の製作をされ、大事に機械を生かし続けておられます。

この様に、機械を熟知し、己のものにする。知恵と工夫で技術・技能を磨き続ける。これこそが日本のものづくりの原点であります。

また、秀でた伝統に培われた現場の強さ・匠の技を、職人のカンコツだけに頼ることなく、科学的に突き詰めることで、先端的・革新的な技術を生み出し、日本のものづくりを世界のトップに押し上げてきたのです。

強みを活かす

日本の「強いものづくり」を育んできた重要な要素として、つくり手一人ひとりが、豊かな感性や製品に対する強い思い入れを持ちつつ、お客様の立場に立ってものづくりに取組むということが挙げられます。

お客様の声を聞き、市場のニーズ・将来動向を考え、新たな価値を創造し、市場を開拓する。多様なお客様のニーズにきめ細かく応えるために、培われた高い技能をベースに、アイデアを製品化する。また、製品不具合に対する声に真摯に耳を傾け、改善を重ね、PDCAサイクルをまわし続けることで、ものづくりの力が鍛えられてきたのです。

会員各社の多くの皆様は、特装やトラック・バス・ト

レーラなど、働くクルマを中心とした事業を通じ、お客様の「一点一様・多岐にわたるニーズ」を常に伺い、高い技能できめ細かく応え、「品質・コスト・納期」のいずれも満足していただけるものづくりと、たゆまぬ改善で、競争力を維持する努力が続けられています。

言い換えれば、私達は最も日本のものづくりの強みを活かすことができるジャンルで事業活動を行っているということでもあります。

若い世代に^{たすき}襷をつなぐ

ものづくりに携わる者として、常に原点を見失わず、お客様の声に真摯に耳を傾け、更なる強みに発展させること。そして長い間培われてきた、ものづくりに対する気概・姿勢・匠の技を伝承する若い世代を育成すること。これが、私達に課せられた使命です。

人材はスピード感・一体感のある環境でこそ育ちます。現地現物で、職場先輩と共に課題をスピーディに解決できる環境づくりと、若い世代のチャレンジ意欲をかきたてる目標設定に努め、今後も日本がものづくりの主役であり続けるよう、襷をつないでいきたいと思っています。

当工業会では、円滑な法規対応を最重要項目として推進するとともに、安全・品質・環境など多様化・高度化した社会的要求への対応として、技術的な会員支援の更なる充実や、車体業界の将来像の研究・ビジョンの策定を進めてまいります。

現在、車体業界は厳しい経営環境下に置かれておりますが、会員各社が人材育成・技能伝承に注力し、持続的に成長する。即ち、日本の「強いものづくり」を守っていくために、微力ながら皆様とともに精一杯取り組む所存であります。

秋季会員大会を開催

2012年度秋季会員大会が、12月3日、世界貿易センタービル「浜松町東京會館」にて開催され、210名が参加した。

水嶋会長の挨拶に続き、いすゞ自動車(株)による講演会が行われた。講演会の後は懇親会が行われた。



水嶋会長

会長あいさつ

車体工業会の会長を務めております水嶋でございます。

会員の皆様には、日頃から当会の活動にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

また本日はご多用中にもかかわらず、このように多くの会員の方々に出席をいただき、秋季会員大会を開催することができましたことを心より感謝申し上げます。

先ほど事務局に聞きましたところ、210名以上という、2年前の会員大会に対して20%も多い、過去最高の参加申込みをいただいたとのことで、たいへんうれしく思っております。

さて、国内の政治は当面は選挙一色であり、予算編成や税制改正も例年よりも大幅に遅れており、経済も減速傾向を強めている中、歯がゆい思いをされている皆様が多いと推察いたします。

本年度4月～10月の当会会員生産台数を見ますと、前年比約25%増の138万台と好調に推移しております。特に委託生産車を除く当会特有の非量産車をみますと、約8万台と前年比約34%もの増加となっており、震災から復旧した昨年7月以降、16か月連続の前年超えが続いております。

景気の減速感が強まっています中、「今後の需要の見通し」が大きな関心事でありますので、後ほどいすゞ自動車(株)様、及びいすゞ自動車販売(株)様にご講演いただき、その動向をおうかがいしたいと思います。



懇親会は白根副会長による乾杯ではじまった

NEWS 特集

それでは、当会の事業計画の進捗状況について簡単に述べさせていただきます。今年度は「安全への対応」「環境への対応」「会員支援活動」を重点に活動しております。

一点目の「安全への対応」では、本年7月のリアバンパー、及びシート&シートベルト関係法規への対応が順調に終了できました。リアバンパーは、当会特有のJABIAプレート制度を創設し、シート&シートベルトでは当会共通仕様を共同開発し、会員会社での車検対応が円滑に出来るようになったことは大きな成果と考えております。

「環境への対応」ではCO2、VOC、産業廃棄物の削減とも、皆さまのおかげで、今年度目標もほぼ達成出来る見込みとなりました。新環境基準適合ラベル、通称「ゴールドラベル」の運用も、会員への取得支援活動、社会へのPR活動とも積極的に進め、87機種で適合認定となりました。

「会員支援活動」では、本年度から新たにスタートさせました「車体業界将来ビジョン策定」と「高齢者雇用推進事業」とも、現状調査のまとめが終了しました。課題がたいへん多く、対応に苦慮をしておりますが、近々、皆様に中間報告ができる段階になっております。その節にはいろいろご意見をお願い致します。

当会正会員数は増加を続け、本年度も新たに11社に入会頂き179社となりました。この4年間で19社も増加し、大変ありがたく思っておりますが、当会への期待も、年々大きくなってきていることを実感すると共に、責任の重さを感じる次第でございます。

引き続き「会員の皆様のお役にたつ車体工業会」を念頭に活動して参りますので皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

最後になりましたが、会員各位のご健勝とますますのご発展を祈念いたしまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。



大勢の参加者で賑わった懇親会会場



新規会員の紹介も行なわれた



筆谷副会長の軽妙なトークで一本締め

いすゞ自動車(株)より講師を招き 講演会を開催

～ 大型トラック・バスの市場動向と
架装メーカー殿に望むこと ～



いすゞ自動車販売(株)取締役事業推進本部補佐堀田雅之氏及びいすゞ自動車(株)商品・架装政策部部長井口晃一氏を講師にお招きし、トラック・バスの市場動向と今後の見通しについてご講演いただいた。

第一部「国内バス・トラック需要動向」

いすゞ自動車販売(株)
取締役事業推進本部補佐
堀田 雅之氏



■ 国内商用車登録実績と 車体形状別構成比の推移

2009年上期に2008年リーマンショックの影響があったが、緊急経済対策やエコカー補助金でリーマンショック前の水準まで回復。しかし2011年上期は震災の影響で激減、その後復興需要で回復中。10万台を超えるボリュームから4万台まで落ち込んだが、およそ6万台レベルへ回復しつつある。直近の全体需要(2011下/2012上)は、堅調な国内景気に加え、復興需要及びエコカー減税／補助金効果により、リーマン前の水準へ徐々に回復。

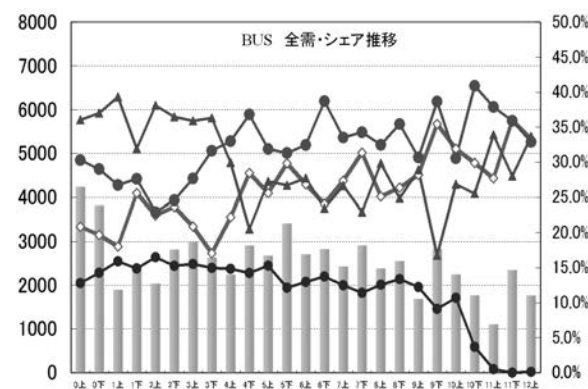
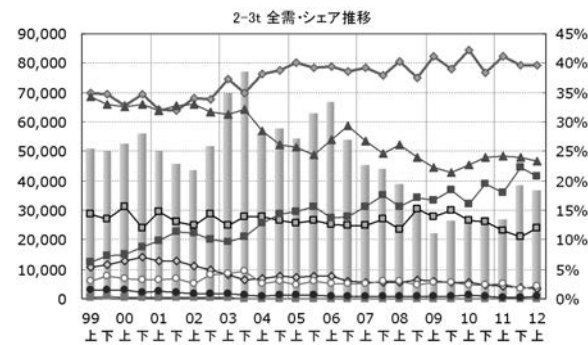
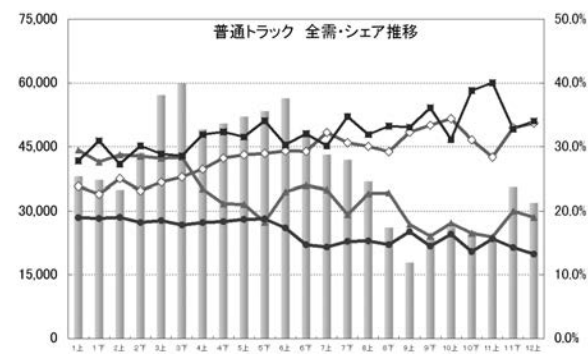
復興需要で2011年上期以降ダンプが急伸し2012年上期の構成比は20%、2010年下期(11%)の2倍に達している。平ボデー(クレーン付き／建機運搬車含む)も構成比を増やしバン系を上回った。バスは2012年上期は大型観光の構成比が49%と拡大した。(前年差+14%)

■ 保有台数

トラックの保有台数については、全体的に保有調整がほぼ完了し、NOx・PM規制ピーク後からの減少傾向がここ数年で緩やかな変化に転じている。

バスについては減少傾向が継続しているものの、直近では、減少率が小幅になりつつある。

中型、2～3トンともにレンタカーは増加傾向となっている。



■ 今後の見通し

2003年～2006年の首都圏対策車の代替需要の発生が、保有調整が終わった後の2013年より見込めるため、今後2～3年の需要は底堅いと思われる。また消費税増税に伴う駆け込み需要の山が出てくる可能性もあるので、当面の間は高い水準での需要継続を期待できるとと思われる。

第二部 架装へのいすゞの取り組み

いすゞ自動車(株)
商品・架装政策部部長
井口 晃一氏



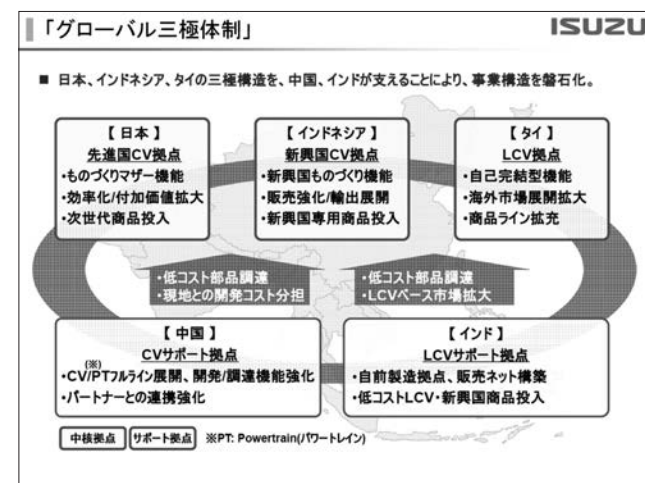
先進国成長率は、生産人口の減少や財政悪化等により低下傾向にある。拡大を見込まれるアジアを中心とした新興国に需要が推移していくのは確実である。この地域へは中国・韓国・インドのメーカーの輸出が急増している。

中期経営計画としては、先進国の需要低迷と新興国の成長の持続を前提とした環境の中で、事業領域の拡大及び事業構造のあり方の変換をしていかななくてはならない。

■ グローバル三極体制

日本、インドネシア、タイの三極構造を、中国・インドが支えることにより、事業構造の磐石化を図る。タイでは2012年10月に新工場を立ち上げ生産40万台体制を確立した。サポート拠点となる中国・インドでは部品開発、販売体制などを強化している。

日本国内事業は長期的には生産が難しくなっていくであろう中で、安定化を図るため保有事業の深堀りに着手している。



■ 今後の商品開発の方向性

先進国では環境性能や安全・快適・静粛性などが求められる一方、新興国では耐乱用性(高積載、粗悪燃料)や必要最低限の装備などのニーズが高いので、新興国に適した車両の開発も必要である。

日本国内の法規動向では、2015年からの重量車燃費基準への準備や安全面でのAEBS搭載など様々な厳しい規制に対応していかななくてはならない。



また次世代環境自動車の開発として、CNGや燃料電池など燃料の多様化への対応や、ディーゼルエンジンの高効率化やハイブリッド化も重要な課題となっている。

■ 架装への取り組み

様々なデバイスが搭載され複雑化していくシャシであるが、架装性確保は重要なテーマと捉えており、架装しやすいシャシを開発していきたい。

車両のレイアウトを事前に把握することができるデジタルモックアップ技術や、疑似負荷での使われ方検証など、コンピュータを駆使した開発も行っている。

また、架装メーカー様との連携による完成車展開や営業マンの架装知識向上を図るなど、架装に対する各種取り組みを推進している。

今後は海外拠点において、それぞれの国の架装に応えていくために、車体メーカー様と成長市場である新興国需要への相互協力・連携を考えている。インドネシアにおいても荷主ニーズと現地架装メーカーの間でも変化とギャップが出てきており、日本国内の架装メーカー様には海外進出の好機会と捉えていただき、ともに協力をしていきたい。

■ 架装メーカー様へのご提案

高品質の車両を市場に供給し続けていくために、架装のデータや使われ方の情報などを事前にいただけると大変ありがたい。また新商品を開発するにあたってのシャシへのリクエストやご提案等も随時募集中であり、今後ともシャシメーカーとして、市場についての車体メーカー様のお考えやご意見を親しく交換していきたい。



NEWS 特集

2012年欧州視察報告

(IAA国際モーターショー・パリ国際モーターショー・他)

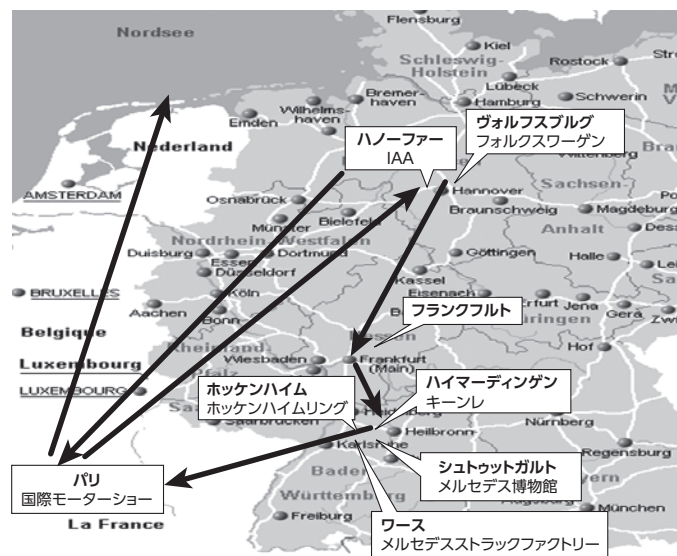
期間：2012年9月24日(月)～10月3日(水)

視察団団長：佐口 温 副団長：林 昌弘

今年度欧州視察は9日間の行程でドイツ、フランスを巡り、IAA国際モーターショー、パリ国際モーターショーを中心に、欧州の自動車事情を視察してきた。佐口温(トヨタ車体㈱執行役員)を団長に14名が参加した。ここにその内容を報告する。

視察団メンバー

氏名	会社名	所属・役職
佐口 温	トヨタ車体(株)	執行役員 (団長)
林 昌弘	自動車精工(株)	常務取締役 (副団長)
小田切勝実	(有)小田切車体	代表取締役
川本 雅春	(株)北村製作所	特装車両事業部課長
曾我 謙治	(株)北村製作所	製造第一部製造課課長
布原 達也	極東開発工業(株)	開発部部长
齋藤 政男	ジェイ・バス(株)	宇都宮ボデーCE 課長
松森 洋	ジェイ・バス(株)	小松開発設計部 機装グループ 主任
関根 健一	自動車精工(株)	車両部品事業部 設計部リーダー
宮本 直史	須河車体(株)	取締役
濱島 隆	大和塗料販売(株)	営業本部第一部 第一グループ 担当
青地 潔	日産車体(株)	総務部 部長
鳥飼 祐二	日産車体(株)	経営管理部 部長
信澤 幸男	(一社)日本自動車車 体工業会	総務部 総務課長



欧州視察総括

団長 佐口 温

2012年度日本自動車車体工業会欧州視察団の団長として参加し、IAA国際モーターショー、パリ国際モーターショーを視察、またドイツの自動車関連会社(メルセデストラック社、キーンレ社)の訪問に加え、フォルクスワーゲン社のアウトシュタットや、F1ドイツグランプリの舞台であるホッケンハイム・リンク等自動車関連施設を訪問することができた。

また、ヴォルフスブルグからフランクフルトへはICE(Intercity-Express)で移動。欧州をバスや飛行機のみでなく鉄道で移動できたことも貴重な体験で、有意義で、かつ楽しい視察でした。

今回の視察の大きな目的である、IAA国際モーターショーでは、会場の広さを効果的に使った展示には圧倒され、バス、トラック等の大型車両の展示はその圧倒的な迫力に感嘆しました。数十台の車両が一同に並ぶブースは壮観なものです。

また、特装車両においても様々な機構がおりこまれ知恵と工夫がおりこまれた展示に興味をそそられました。今回2日間かけて見学したことは、とても良かったと思います。

展示内容はCO2削減や排気ガス浄化性能といった環境性能をテーマにしたものも多く、欧州では日本同様より環境重視の考えが浸透していることが窺えました。

企業訪問では、各社の企業戦略を交えた沿革および、現在の取組などのプレゼンテーション、生産ラインの見学など丁寧に対応していただきました。

今回の欧州視察は、視察内容はもちろん、団員相互の交流も今後の業界に大変に有効であり今後ともこの視察が継続的に行われることを祈念し、欧州視察総括といたします。

9月25・26日	IAA国際モーターショー商用車(ハノーファー)
9月26日	フォルクスワーゲン アウトシュタット(ヴォルフスブルグ)
9月27日	ホッケンハイム・リンク(ホッケンハイム)
9月28日	メルセデストラック社(ワース) キーンレ社(ハイマーディンゲン)
9月29日	メルセデス博物館(シュトゥットガルト)
10月1日	パリ国際モーターショー(パリ)

1. IAA国際モーターショー視察

9月25・26日 記／川本、齋藤、松森、布原



■ 概要

通算64回目となる国際商用車ショーで、約50万㎡の敷地に46か国1904社がそれぞれブースを構え、来場者数は26万人を超える規模となった。また、354もの世界初公開ものが出品されており、会場には熱気が溢れ、通貨危機によるヨーロッパ経済の陰りの影響は少ない。

展示は環境規制への対応に関するものが多く、大型トラックは2014年に控えたEUROVI規制の準備を完全



に終えたことを強くアピール、また、ほとんどの小中型メーカーは小型EV商用車を出展していた。

■ 架装部門

今回は、小型トラックが自動でトレーラ化するものが現れた。通常は3.5トン積みトラックだが、荷台サブフレーム後部に車輪、前部にターンテーブルを備え、全体をスライドすると、7トン積みのトレーラに変身する。柔軟な取り組みとその寛容さに、さすが自動車を発明したヨーロッパ圏の発想は自由であると感じた。



ボデー架装は、サンドイッチパネル構造と幌カーテン式構造の二種類に分けられ、ヨーロッパでの市場ニーズの違いから、日本で



主流のアルミバンやウイングボデーはほとんどない。天井の材質を変えて室内を明るくする事や、工作車の棚や作業台を固定する方法などに様々な工夫が施されていた。大型においても塵芥車との組み合わせなどでEVで車両が出展され、EV車対応の架装パーツも出展されていた。

■バス部門 (記:齋藤、松森)

観光バスは各社とも、ペアガラスの固定窓を採用、外観は凹凸なく綺麗に纏まっており、窓の見切りはすべて埋められている。その室内は、ブルーLEDを使用するアクセサリ照明が多く見られたが単色ではなくアクセントがあり、デザイン性を感じ



る空間となっていた。シートに関して、欧州のバスのトレンドは効率性、快適さ、安全性の追求に一貫して向かっていると言われており、その形状、フットレスト、シートスライド機構など長距離定期コーチサービス向けの仕様になっていた。全体に欧州車はシンプルな空間を作り出していると感じる。



路線バスもボディパネルに凹凸が無く綺麗に纏まっていた。また、窓が大きく運転席の視界・客席の視界が広く開放感がある。欧州車の場合は両方

共樹脂製であり見映えが良い。リヤオーバーハングに扉があるものが見受けられた。大量乗降や車いす使用者と健常者の乗降を同時に行うこと等が可能となる。

路線バスでもEV、ハイブリッドを展示しており、欧州車はモーターショーに出展する程に技術力があると感じた。



2. アウトシュタット視察

9月26日 記／青地、濱島

フォルクスワーゲンの街、ヴォルフスブルグ。駅前にあるフォルクスワーゲンは同社最大の生産工場群で、屋根面積は約25ヘクタール(東京ドーム5.5個分)ある。社屋は戦前からの工場の表情のままで、増設された施設と境目なく美しい外観を見ることが出来る。

そこに隣接されているのが今回視察した「アウトシュタット(車の街)」である。

この大型施設は、2000年6月 ハノーファー万博に伴い、フォルクスワーゲン社が一大テーマパークとして完成させたもの。施設内には、車の歴史と世界の名車が見られる博物館や、フォルクスワーゲングループの各ブランドの趣向を凝らしたパビリオンなどがある。子供用のアトラクション

も充実しており、家族やカップル等幅広い年代が楽しめる施設になっている。“クンデン・センター”と呼ばれる納車施設では、ドイツでのフォルクスワーゲン購入者の実に3分の1が利用している。納車数は、1日当たり平均500～600台。多いときには1日800台を記録したこともあるとのことである。



3. ホッケンハイム・リンク視察

9月27日 記／曾我

ホッケンハイム・リンクは1932年の開設以来80年の歴史を誇り、座席数12万席を有する世界有数のサーキット場の一つである。F1はもちろんのこと、F3、バイク、ドラッグレース等が行われ、F1ドイツGPはこのホッケンハイムとニュルブルクリンク・サーキットとで隔年で交互に開催されている。現在ではその94%がホッケンハイム市に属する公共の施設でもあり、レースの他、工業用のテスト走行、もちろん一般車の走行も受け入れ、コンサートが行われることもある。



4 ダイムラー・トラック社 ヴェルト工場視察

9月27日 記／小田切、鳥飼

■ 概要

ダイムラー・トラック社は車両総重量6トンを超えるメルセデス・ベンツ、フレートライナー、ウェスタンスター、三菱ふそうなどのトラックをグローバルネットワークのもと開発、生産を行っている。

今回、ドイツ南西部ラインラント・プファルツ州南部のフォートワース、ライン川の畔にあるヴェルト工場を視察した。工場の設立は1963年、敷地面積480万㎡、建屋面積48万㎡、従業員12,000名の工場である。メルセデス

ベンツブランドのトラック(Actros、Axor、Atego)及び特殊車両(Econic、Unimog、Zetros)を2交替制で400台(max470台)／日を生産している。メタルを含む全ての部品の99%が協力会社からの納入、受注生産方式をとっている。

ボデー組立工程は全長1,000mで車種別の専用自走治具によるフレキシブルラインとなっている。溶接口ボットは240台配置されており溶接状態はカメラで監視、抜き取りで溶接ポイントを超音波で検査している。

フレームアッセンブリー工程は3本、受注順に協力メーカーから納入された専用フレームを投入し、補機類、パイピング、ハーネス、板バネ等をフレームに組み付け塗装している。以降、エンジン、タイヤ、キャビンの順にアッセンブリーが行われる。

ファイナル工程では塗装チェック・修正、ブレーキテストを実施。2台／日抜き取りで走行テスト(車走50～200km)、レインテスト、ファイナルチェックが実施されている。

完成車両は2,000台／週で、お客様が直接引き取りに来る。2,000kmの試運転後に正式登録となる。直ぐに欲しい人には中古車を紹介する。素晴らしいのは塗装。ドイツでは凍結防止のため塩を混ぜた砂を道路に散布するため、キャブは標準で7コート、展示されていたキャブは20コート、シャシーは黒色電着塗装＋グレー色スプレー塗装の2コートで防錆にかなり力を入れている。最後に、案内していただいた現場OBの方の熱心な説明、活発な質疑応答で非常に良い視察となった。

5. キーンレ自動車技術社視察

9月28日 記／曾我

キーンレ社はベンツのクラシック車をレストアする会社で、板金修復・内装修復・塗装・オーバーホール等を行っており、レザーシート・点火プラグ等は自社製作している。各地より依頼された車両は空輸され運び込まれる。分解整備するパーツは3万点に及び、復元不可能なパーツは再製作し再び組みなおしていくという。ハノーファーにはメッキ工場などの協力会社もあり、完璧な体制でレストアを行っている。曲線がかった外板板金は型紙で採寸し、プレス・微調



整等で板金加工時間は実に1600時間にも及ぶ。ここ近年現場合わせ加工が少なくなる中で高効率化も重要だが、臨機応変に部品改造等の対応できる人材も少なくなってきたことを実感した。熟練工の技とクラシックを愛する心が融合した素晴らしい会社である。

6. メルセデス博物館視察

9月29日 記／関根、曾我

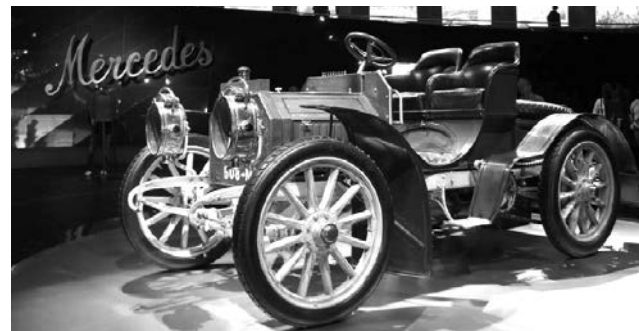
■ 概要

2006年5月に完成したメルセデス・ベンツの博物館である。自動車の発明から現在に至るまで約125年にわたるメルセデス・ベンツの歴史を紹介、車両160台を含め、1,500点以上の展示物がある。建物は二重螺旋構造となっており、最上階の自動車黎明期のフロアから、螺旋構造の順路を下って年代順に9つのフロアを鑑賞すると、それぞれの時代を背景に進化していく様を、どっぴりと体感できる。

■ 展示内容

1886年、カール・ベンツとゴットリープ・ダイムラーが動力エンジンを開発して自動車が誕生し、そこから125年に亘るメルセデス・ベンツの歴史が始まる。単気筒1.1psガソリンエンジンを搭載した三輪車から始まり、補助輪付2輪車→4輪車・船舶→飛行船→機関車→レースカーへとめまぐるしい速さで技術を確認し進歩させ、陸・海・空を制覇していく様が、展示物・案内板を通して堪能できる。案内板には実際に使われていた当時の写真や三面図、エンジン性能等が記載されており、それに合わせて日本語音声ガイドの説明を聞けば、その当時の伝説を否が応でも思い浮かべる事ができる。

この「レジェンド・エリア」を過ぎると、メルセデスの多彩な自動車をテーマ(旅、商用車、緊急自動車、著名人、ヒーロー)毎に展示している「コレクション・エリア」に移り、その次に、現代のCO2排出0のリチウムイオンバッテリーを搭載したEV車、フューエルセルの燃料電池車、プラグインハイブリッド車が連なり現代の環境問題を重視するフロアとなる。最後のフロアでは、F1等様々なカテゴリーで活躍しているレーシングカーの展示もされている。



7. パリ国際モーターショー

10月1日 記／林、宮本

世界でもっとも歴史があり起源を1898年にさかのぼる欧州最大の規模である「モンディアル・ドゥ・ロトモビル」



ことパリモーターショー(通称「パリサロン」)は、パリの郊外のポルト・ドゥ・ヴェルサイユで2年おきに開催される。

フランス車ブランドであるルノー、プジョー、シトロエンや、ドイツ車ブランドや英国車ブランド等と、今回はフルモデルチェンジを果たしたフォルクスワーゲン「ゴルフ」をはじめ、ルノーが「ルーテシア(クリオ)」、ボルシェが「911 カレラ4」、ジャガーが「Fタイプ」と、各ブランドの新型モデルの発表もされた。

今回の傾向は、劇的な軽量化でゴルフがスチールで細かな軽量化で100kgの減量を達成、4代目land roverはオールアルミで420kgの減量を達成するなど、量販車における軽量化技術の躍進。また新興国戦略セダンが低価格セダンとして発表が相次いだ(rapid c-elysee logan等)。新型ゴルフは外観形状がシャープな面で構成され、隙、チリが少なく品質感を高めており、欧州STD車が新たなレベルを目指していることを感じる。各車両は同一表示がなされており燃費、CO2の発生量が比べられてエコに対する意識の高さを大きく感じられた。また電気自動車の出展も多く、あるパビリオンでは電動レーシングカーの本格的なコースを作っており観客やプロのドライバーによるエキジビションもおこなわれ、その横での各社の電気自動車の試乗会も盛況であった。また各ブースの動画も興味深いものがありWRCの動画、マクラーレンの開発と生産工場の動画等嗜好を凝らせていた。



2011年度会員企業の売上高／従業員 調査のまとめ

例年正会員に実施している売上高等の調査結果について本年度調査結果がまとまったので概要を報告する。
(2012年7月に調査、売上高は2012年3月に最も近い決算期、従業員数は3月末現在)

1. 売上高

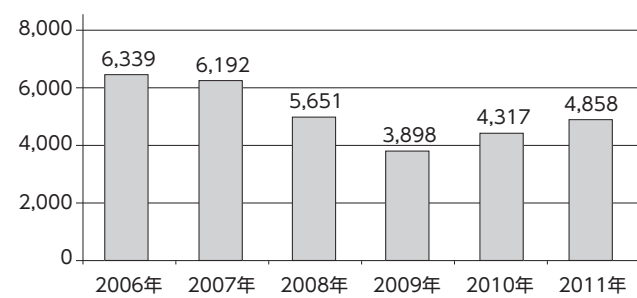
- (1) 会員会社全体の車体製造に係る総売上高は4兆3,228億円となり、昨年比7.2%増となった。上期に震災影響で大きく落込んだが、下期に挽回し、通年では前年超え。

■非量産会社 売上高推移 (億円)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
調査会員数(社)	163	163	163	167	170
車体部門売上高合計	53,740	45,168	41,405	40,291	43,228
非量産車製造会社売上高	6,192	5,651	3,898	4,317	4,858

- (2) うち、委託量産会社を除く非量産会社の売上は4,858億円で昨年比12.5%増となった。非量産会社はサプライチェーン寸断の影響は比較的少なく、需要増もあり大幅売上増。

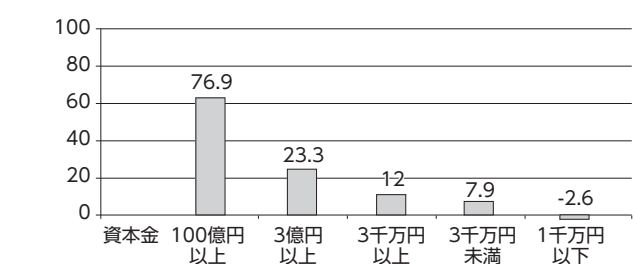
■非量産会社 売上高推移 (億円)



(3) 規模別景況指数

景況指数(増収会社率-減収会社率)から見ると、会社規模が大きいほど好調である。

■2011年度会員規模別 景況指数



2. 従業員数

- (1) 会員会社全体の車体製造に係る正社員数は48,159人(前年比3.8%増)
期間従業員・嘱託等を含む全従業員数は55,091人(前年比0.6%増)

- (2) 非量産車製造会社での車体製造に係る正社員数は14,558人(前年比4.6%減)
期間従業員・嘱託等を含む全従業員数は16,433人(前年比3%減)

(3) 従業員別会社数

正会員50人未満の会員比率は68.8%と高い。

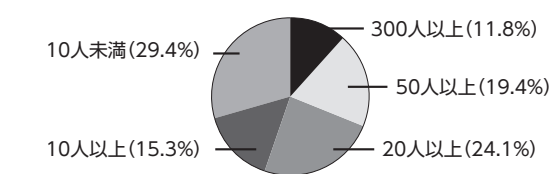
■従業員数変化

従業員数	2010年度	2011年度	前年比	2011年 期間工 ※1	期間工等 使用率 ※2
全正社員数	106,429	106,426	99.9%	15,809	12.9%
車体部門正社員数	46,409	48,159	103.8%	6,932	12.6%
うち非量産車製造会社	15,256	14,558	95.4%	1,875	11.4%

※1 期間従業員等：期間従業員や嘱託、派遣社員等

※2： 全体(従業員+期間従業員等)

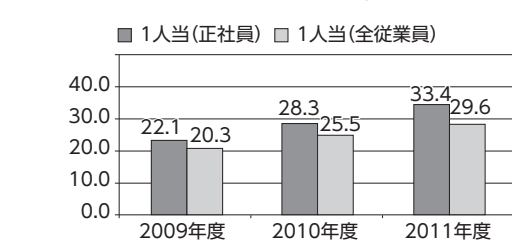
■2011年度正社員別会社数



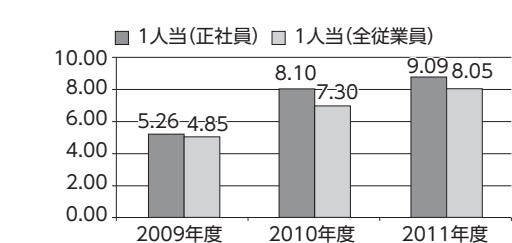
3. 従業員1人あたりの売上高、生産台数 (非量産会社)

この2年間、1人当り売上高は約1.5倍、1人当り台数は約1.7倍となっている。

■従業員1人当たりの売上高 (単位:百万円/人)



■従業員1人当たりの台数 (単位:台数/人)



新規検査届出書変更説明会(検査法人)

中央技術委員会(委員長・筆谷高明・極東開発工業(株)代表取締役社長)では、12月3日に「くるまプラザ会議室(自動車会館)」において、自動車検査法人業務部担当官を講師に招き、『新規検査等に係る事前入力ソフトの使用方法(QRコード作成)』に関する説明会を実施した。参加者は会員会社56社80人。説明会の概要は次のとおり。

1. 導入目的と概要

車両検査時の検査票の誤入力防止や検査作業の効率化による検査時の待ち時間短縮を目的に届出用紙を変更する。

具体的には事前に本ソフトを用いて必要項目を入力後、新規検査等届出書(QRコード付)を印刷し、検査時に提示することにより、高度化施設においてQRコードから車台番号・車名・型式・原動機型式等の諸元データを読み込むことができるものである。

2. 本ソフトの使用方法概要

(1) ソフトのインストール方法

当会から会員宛に送付済みのQRコード作成ソフトをダウンロードして圧縮ファイル「InitPreEntry101.zip」を解凍し、パソコンの任意のフォルダに解凍後の「InitPreEntry」フォルダを貼り付ける。

(2) ソフトの起動方法

- ① 「InitPreEntry」フォルダを開く
- ② 6つのフォルダの中から「bin」フォルダを開く
- ③ 「InitPreEntry.exe事前登録機能」をクリックし起動させればスタート画面が開く

(3) 新規検査届出書の入力方法

- ① スタート画面である「新規検査届出書入力一覧画面」の右下に【新規】ボタンを押す
- ② 「新規検査等届出書入力(新規)1/3」画面の括弧書き無し、有り、セミトレーラの別を選択後、所定の項目を入力する。ただし、「車名」及び「車体の形状」欄は3桁のコード番号を入力する。
- ③ 続いて、画面下の【次へ】のボタンを押して、順次、2/3画面、3/3画面の所定の項目を入力する。

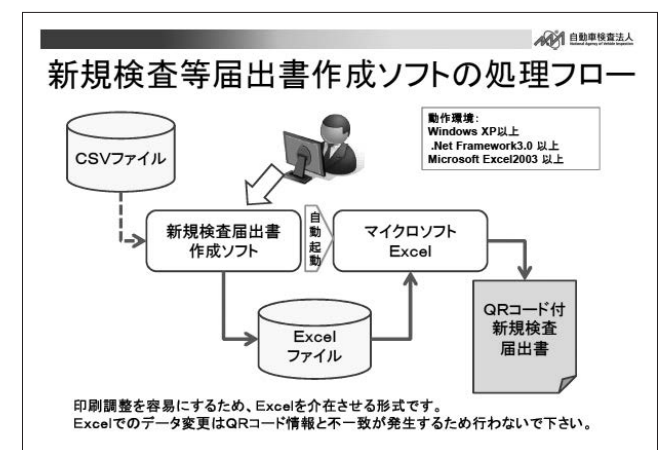
(4) 新規検査等届出書の出力方法

- ① 全項目を入力後、3/3画面の下方の【届出書出力】のボタンを押すと、【新規検査等届出書の作成が完了しました。】の画面が表示されるので【OK】ボタンを押すと印刷ページが表示される。



- ② 表示された印刷ページをそのまま印刷すると、新規検査等届出書にQRコードが印刷される。

【QRコードのサンプル参照】



新規検査等届出書																																																																																																											
諸元確認者の氏名又は名称 (電話) 03-3578-1681	所在地 港区芝大門1-1-30	印																																																																																																									
車名・型式 日野・LDG-FW1EXBG	車台番号 FW1EXBG-100000																																																																																																										
種別・用途 普通・貨物	車体形状 キャブオーバー																																																																																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">原動機</th> <th colspan="2">燃料の種類</th> <th colspan="2">軽油</th> </tr> <tr> <th>原動機型式</th> <th>E13C</th> <th>総排気量又は定格出力</th> <th>12.90</th> <th>L</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全長</td> <td>11.950</td> <td>全幅</td> <td>2.490</td> <td>全高</td> <td>2.720</td> </tr> <tr> <td>荷台内面長さ</td> <td>9.500</td> <td>荷台内面幅</td> <td>2.300</td> <td>荷台内面高さ</td> <td>2.420</td> </tr> <tr> <td>ホイールベース</td> <td>1.850</td> <td>軸間距離</td> <td>1.200</td> <td>計算上のホイールベース</td> <td>5.905</td> </tr> <tr> <td>「サスペンション」</td> <td>2.965</td> <td>限度</td> <td>3.715</td> <td>オフセット</td> <td>1.190</td> </tr> <tr> <td>同上(荷台内側)</td> <td>2.960</td> <td></td> <td>1/2</td> <td>計算上のオフセット</td> <td>1.190</td> </tr> </tbody> </table>						原動機		燃料の種類		軽油		原動機型式	E13C	総排気量又は定格出力	12.90	L		全長	11.950	全幅	2.490	全高	2.720	荷台内面長さ	9.500	荷台内面幅	2.300	荷台内面高さ	2.420	ホイールベース	1.850	軸間距離	1.200	計算上のホイールベース	5.905	「サスペンション」	2.965	限度	3.715	オフセット	1.190	同上(荷台内側)	2.960		1/2	計算上のオフセット	1.190																																																												
原動機		燃料の種類		軽油																																																																																																							
原動機型式	E13C	総排気量又は定格出力	12.90	L																																																																																																							
全長	11.950	全幅	2.490	全高	2.720																																																																																																						
荷台内面長さ	9.500	荷台内面幅	2.300	荷台内面高さ	2.420																																																																																																						
ホイールベース	1.850	軸間距離	1.200	計算上のホイールベース	5.905																																																																																																						
「サスペンション」	2.965	限度	3.715	オフセット	1.190																																																																																																						
同上(荷台内側)	2.960		1/2	計算上のオフセット	1.190																																																																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">重量分布</th> <th colspan="2">合計(kg)</th> <th colspan="2">車体の塗色</th> </tr> <tr> <th>前輪(kg)</th> <th>後輪(kg)</th> <th>合計(kg)</th> <th></th> <th colspan="2"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車両重量</td> <td>6850</td> <td>7530</td> <td>14380</td> <td colspan="2">黒</td> </tr> <tr> <td>前2軸車の補正値</td> <td>3330</td> <td>3520</td> <td>3810</td> <td>3720</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗客定員</td> <td>2</td> <td>120</td> <td>-10</td> <td>110</td> <td></td> </tr> <tr> <td>最大積載量</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10500</td> <td></td> </tr> <tr> <td>車両総重量</td> <td>9070</td> <td>15920</td> <td>24990</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>4535</td> <td>4535</td> <td>8010</td> <td>7910</td> <td></td> </tr> <tr> <td>許容軸重限度</td> <td>10200</td> <td>20000</td> <td>25000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>5100</td> <td>5100</td> <td>10000</td> <td>10000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>タイヤサイズ</td> <td>前 265/70R19.5 140/138</td> <td>後 265/70R19.5 140/138</td> <td></td> <td></td> <td>最大安定傾斜角度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>後 265/70R19.5 140/138</td> <td>265/70R19.5 140/138</td> <td></td> <td></td> <td>左 35° 右</td> </tr> <tr> <td>タイヤ推奨荷重</td> <td>5100</td> <td>5100</td> <td>9620</td> <td>9620</td> <td>40° 40°</td> </tr> <tr> <td>タイヤ負荷率</td> <td>88.9 %</td> <td>88.9 %</td> <td>83.3 %</td> <td>82.2 %</td> <td>前輪荷重割合 36.3 % ≥ 20 %</td> </tr> <tr> <td colspan="5">備考 消音器・原動機等の改造 無</td> <td>有効期限 3年</td> </tr> <tr> <td colspan="5">燃料タンク 2 個 200 L</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5"></td> <td>保安用</td> </tr> </tbody> </table>						重量分布		合計(kg)		車体の塗色		前輪(kg)	後輪(kg)	合計(kg)				車両重量	6850	7530	14380	黒		前2軸車の補正値	3330	3520	3810	3720		乗客定員	2	120	-10	110		最大積載量				10500		車両総重量	9070	15920	24990				4535	4535	8010	7910		許容軸重限度	10200	20000	25000				5100	5100	10000	10000		タイヤサイズ	前 265/70R19.5 140/138	後 265/70R19.5 140/138			最大安定傾斜角度		後 265/70R19.5 140/138	265/70R19.5 140/138			左 35° 右	タイヤ推奨荷重	5100	5100	9620	9620	40° 40°	タイヤ負荷率	88.9 %	88.9 %	83.3 %	82.2 %	前輪荷重割合 36.3 % ≥ 20 %	備考 消音器・原動機等の改造 無					有効期限 3年	燃料タンク 2 個 200 L											保安用
重量分布		合計(kg)		車体の塗色																																																																																																							
前輪(kg)	後輪(kg)	合計(kg)																																																																																																									
車両重量	6850	7530	14380	黒																																																																																																							
前2軸車の補正値	3330	3520	3810	3720																																																																																																							
乗客定員	2	120	-10	110																																																																																																							
最大積載量				10500																																																																																																							
車両総重量	9070	15920	24990																																																																																																								
	4535	4535	8010	7910																																																																																																							
許容軸重限度	10200	20000	25000																																																																																																								
	5100	5100	10000	10000																																																																																																							
タイヤサイズ	前 265/70R19.5 140/138	後 265/70R19.5 140/138			最大安定傾斜角度																																																																																																						
	後 265/70R19.5 140/138	265/70R19.5 140/138			左 35° 右																																																																																																						
タイヤ推奨荷重	5100	5100	9620	9620	40° 40°																																																																																																						
タイヤ負荷率	88.9 %	88.9 %	83.3 %	82.2 %	前輪荷重割合 36.3 % ≥ 20 %																																																																																																						
備考 消音器・原動機等の改造 無					有効期限 3年																																																																																																						
燃料タンク 2 個 200 L																																																																																																											
					保安用																																																																																																						

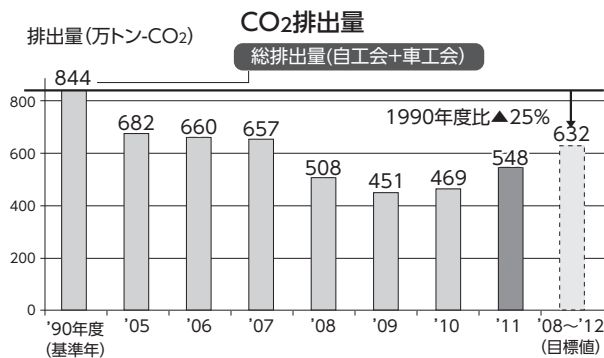
「新規検査等届出書」にQRコードを貼付したサンプル

■環境自主取組みのフォローアップ結果まとまる

1. CO2排出量削減

地球温暖化対策のCO2削減活動は、2008年度から日本自動車工業会と一体となった活動を実施しており、2012年度調査結果(2011年度実績)をまとめた。

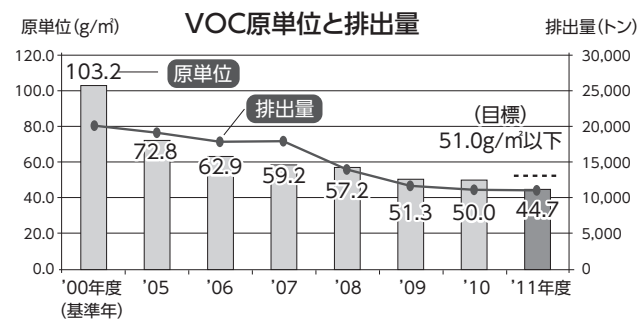
- ・2011年度の両工業会合算排出量548万t-CO2は目標値(1990年比▲25%:632万t-CO2)を過達しているが、電力係数の悪化(対前年比+35.7%)により前年に対し増加となっている。
- ・当会の2011年度原単位削減率は1990年比▲30.6%で、目標(▲38%以上)未達だが電力係数悪化が理由でやむなし。(前年度の電力係数では▲40.1%で目標達成)



2. VOC排出量削減について

塗装工程でのVOC削減について2012年度調査結果(2011年度実績)をまとめた。

- ・2011年度排出原単位は44.7g/m²と昨年に対し大幅に減少し、目標:51.0g/m²以下を達成。
- ・サブ目標である総量(基準年比▲30%以上)についても▲45.2%で達成。



■「車体業界将来ビジョン」策定の進捗状況

将来ビジョン検討委員会(委員長・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)にて本年度事業計画の柱の一つである「車体業界将来ビジョン」策定を検討している。今回、進捗状況について報告する。

1. 進捗状況

- (1) 検討委員会は年間計画通り3回終了
- (2) 第1章「市場の展望」のまとめはほぼ終了
(各種物流データや貨物車需要の分析、物流関係者へのヒアリング調査実施)
- (3) 第2章「車体業界の強み/弱み分析」のまとめ中
(深堀り調査のため中小独立系会員の経営者インタビューを8社終了)

2. 結果概要

- 1) 第1章「市場の展望」まとめ
残念ながら見通しは明るいとは言えず、これを前提とした対応が必要

- (1) 物流の見通し
 - ① 総物流量の減少に伴い自動車貨物輸送量は減少が続く(5年毎に▲10%)
 - ② 近年はGDP増加しても輸送量は増加しない傾向強まる(ソフト産業の発展/高付加価値商品の増加/輸出増加等のため物流増加に直結しない)、等

- (2) 車体工業の見通しと事業適正化
 - ① 架装/特装車等の車体生産はリーマンショック以降回復はしたが、まだ5年前の▲40%
 - ② 景気見通し(GDP1.5%/年増加と仮定)、貨物輸送量減少、保有台数減少、代替期間長期化を考えると、今後も車台需要は減少の見通し
 - ③ 減少が続く小さなパイを「150社以上でしのぎを削る」ような状況が続く

2) 第2章「車体業界の強みと弱み」概要

- (1) 車体業界の強み
 - ① 長い歴史と伝統、経験の蓄積、高いもの作り技術等
 - ② 小規模を生かした小回り性、お客様個別対応力、臨機応変の対応力等
- (2) 車体業界の弱み
 - ① 会社規模小さく、生産台数も少なく、資金力、安定性、開発力に難
 - ② 同業者多く熾烈な競争、最近ではシャシメーカー標準車との競合、等

3. 今後の予定

- ・2013年度事業計画に反映させるため、2月中旬を目処に中間報告をまとめる。

■2013年度 税制改正要望について

中央業務委員会

中央業務委員会(委員長・古庄忠信・(株)イズミ車体製作所社長)では、2013年度税制改正要望を以下のように取りまとめた。

車体工業会要望概要

1. 複雑で過重な自動車関係諸税の簡素化・軽減を要望

- 1) 二重課税である自動車取得税は直ちに廃止
- 2) 自動車重量税の廃止
- 3) 「当分の間の税率(旧暫定税率)」の廃止

2. 中小企業税制

- 1) 中小企業法人税率の特例拡大
未だに企業経営が非常に厳しい状況であるため、中小企業を対象とした法人税を更に軽減することを要望する。
 - ・年所得800万円超の部分:25.5%を22%に軽減
 - ・年所得800万円以下の部分:15%を10%以下に軽減
- 2) 税法上の中小企業定義の見直し

中小企業基本法での中小企業の定義は「資本金3億円以下(製造業)」に引き上げられているが、法人税制上では依然として「1億円以下」である。中小企業関連税制の活用拡大を図るために、法人税制上の資本金基準を「3億円以下」に引き上げることを要望する。

過重なクルマの税負担軽減のため、課税根拠のない

自動車取得税 自動車重量税 は廃止すべき!

生活必需品の自動車には、9種類、8兆円もの税金が課せられています。

生活必需品のクルマに対する過重な税負担を軽減するべきです!

- 1 国際的にも重すぎる車体課税の軽減(欧米諸国と比べて約3.6~50倍の税負担)
- 2 自動車取得税及び自動車重量税は、消費税引上げまでに廃止
- 3 二重課税などの不合理な税体系は是正
- 4 ガソリン税、軽油引取税に上乘せられた「当分の間の税率」の廃止

JAF(日本自動車連盟) <http://www.jaf.or.jp>
自動車税制改革フォーラム・自動車総連

【自動車税制改革フォーラム】
日本自動車連盟(JAF) 日本自動車工業会 日本自動車販売協会連合会 全国軽自動車協会連合会 日本自動車部品工業会
日本自動車輸入組合 日本中古自動車販売協会連合会 全日本トラック協会 日本自動車会連合 全国自動車販売協会連合会
日本自動車整備協会連合会 日本自動車リース協会連合会 日本バス協会 全国通運連盟 日本自動車車体工業会 全国ハイヤー・タクシー連合会
全国レンタカー協会 日本自動車タイヤ協会 日本二輪車協会(NACA) 自動車用品小売業協会 全国自動車会館連合会連合会 以上11団体 閣下同

■高齢者雇用推進委員会を開催

高齢者雇用推進委員会(座長・藤村博之・法政大学大学院教授)では、第3回委員会(9月25日)第4回委員会(11月13日)に開催。会員実態アンケート、会員ヒアリング調査の分析を実施した。

アンケート回答内容は下記のとおり

1. 企業からの回答結果概要(記名)

- 125社・回答率72.3%(大手企業36社+中小企業89社)**
企業回答の結果概要
- ① 再雇用制度(継続雇用含む)…ほとんどの会員で設定済(無い会社は中小企業の4%)
 - ② 雇用形態…大手ではほとんどが嘱託社員/契約社員、中小では正社員が23%もあり
 - ③ 再雇用の際の条件…ほとんどの会社で基準設定あり
 - ④ 再雇用出来なかった理由…大手は能力、中小は健康面が多い
 - ⑤ 再雇用の賃金(定年直前に比較)
 - ・大手=6割台48%、5割台44%
 - ・中小=7割台16%、6割台31%、5割台31%
 - ⑥ 国の助成策の認知度、活用度はまだ不十分

2. 個人からの回答結果概要(無記名)

- 259名(50歳代126名+60歳代133名)**
(1) 60歳代個人回答の結果概要
- ① 現在の仕事を「キツイ」と回答した方
体力的にキツイ=22%、精神的にキツイ=36%
 - ② 自分が会社で果したい役割
大手=業務での貢献(40%)、中小=後輩の指導、技術伝承(42%)がトップ
- (2) 50歳代個人回答の結果概要
- ① 定年後も働きたいか? … 働きたい76%、働きたくない17%、未定7%
働きたい理由のトップは収入、次は健康に良いため
 - ② 高齢雇用者への評価、印象
経験、知識、ノウハウはさすが。やる気をもって頑張っている等の肯定的評価が圧倒的



■2012年度車体工業会PL保険加入状況と2011年度PL事故事例について

毎年10月が保険年度の更新時となり、2011年度損害率と2012年度の加入結果は下記のとおりとなった。

1. 2012年度車体工業会PL保険の加入状況(10月1日現在)

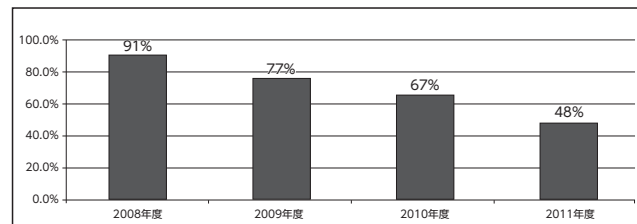
(1) 加入者数と単年度損害率(過去4年間)

年度	保険料 (万円) A	支払 保険金 (万円) B	損害率 (%) C	支払対 象事故 件数	加入 会員数
2009年度 (09.10～10.09)	1,324	477	36	3	85
2010年度 (10.10～11.09)	1,355	556	41	4	86
2011年度 (11.10～12.09)	1,425	927	64	4	89
2012年度 (12.10～13.09)	1,345	—	—	—	89

※2011年度損害率は前年比大幅増加し64%
(損害率C=支払保険金B÷保険料A×100%)

2012年度PL加入状況は加入員数では前年と同様。事故の内容は約400万円の補償額の事故が1件。それ以外は小規模の事故となった。

(2) 3年間移動平均の損害率変化(過去4年間)



※移動平均損害率は3年連続で減少し48%。その結果2012年度保険料は前年比約7%低減

2. 2011年度PL事故事例と再発防止策

2011年度に発生した事故は下記のとおり。

- (1) 平ボデー車の物入れとエキゾースト間の隙少、物入れから発火
(物入れ設置位置不良、遮熱板の設定ミス)
- (2) リヤゲート装着時の養生シートの取外し忘れ、油圧シリンダー内部にシート片が入り油圧装置故障
(養生シートの取り外し作業ミス)
- (3) 車両運搬車の作動油圧回路に異物混入、上昇中に停止不能となり、積載車両のフロントガラス破損
(架装時に油圧回路に異物混入作業ミス)

- (4) 塵芥車の燃料タンク取付時にボルトを締め忘れ、PTOとシャフトが脱落
(ボルトの締付作業ミス)
- (5) トレーラの充電ケーブル取付け不良でショート、火災発生
(充電ケーブル取付け不良&ヒューズ設定洩れ)
- (6) 幌型車の鳥居に作業灯を荷台寄りに取付け、放射熱で段ボールに引火
(作業灯を荷室よりに取り付け過ぎたために、ランプの熱で荷室の段ボールが発火)

■支部連絡会を開催

支部連絡会(議長・堀口昇一・須河車体(株)相談役)では、9月7日、四国支部長会社である(株)タダノ志度工場において2012年度第1回支部連絡会を開催した。また、連絡会に先立ち同社の工場見学を行った。概要は次のとおり。

1. 工場見学

(株)タダノの主要製品は、大型クレーン、カーゴクレーン、高所作業車等であり、会員会社の中でも数少ない抗重力作業機械のメーカーである。工場内の製造ラインは幅18mと広々としていて、その中に、クレーンフレーム製作、油圧配管工程、組立、完成の各ラインが配置されていた。多種少量生産であるが、大型クレーンでも5～7日間で完成することであった。最後に、車両置場で国内最大クラスの550トン吊りクレーンを見た時、その大ききに見学者一同は感嘆の声をあげた。このシャッターチャンスを見逃さずに全員での記念撮影となった。

2. 支部連絡会

- (1) 地域会員大手の正会員化活動の確認
- (2) 支部事業計画の内容充実化の検討
- (3) 支部事業計画の共有化、よいところ取り活動の説明



部会だより

NEWS+FLASH

特装部会

■特装車メンテナンスニュース(車両管理ポイント編)発行

サービス委員会(委員長・行安健一・新明和工業(株))では、10月にメンテナンスニュースNo.31車両管理ポイント編を発行した。

内容は、点検整備には、日常点検、月次点検・メーカー指定点検、年次点検があり、点検・整備を怠ると各部の破損・作動油やオイル漏れ、サビ等が発生し大変危険であること。また、車両管理の6項目のポイントなどをPRしている。なお、当会ホームページの新着情報に掲載中。

<http://www.jabia.or.jp/news/news.php?id=281>



■工場見学会を実施

特装部会(部会長・加藤幹章・新明和工業(株)取締役専務執行役員)では、11月26日、部会員16社／27名が参加し、極東開発工業(株)横浜工場(神奈川県大和市)の見学会を実施した。

同社は、全国4か所に工場を有しており、横浜工場は首都圏に位置していることから2トンダンプの型式指定車を製造するなど主力工場として稼働している。

工場入口の正面には、ダンプ車をデザインしたユニークな事務棟があり参加者を迎えてくれた。

最初に、ビデオによる工場概要説明があり、その後、近代的な設備の中でダンプ車、脱着キャリア・コンテナ、一台積車両運搬車などの架装や製造工程を見学することができた。

参加者からモノづくりに対する知見が広められたこと



と、会員間の情報交換ができた有意義な見学会であったと好評であった。

特種部会

■2012年度第2回見学会を実施

特種部会(部会長・古庄忠信・(株)イズミ車体製作所社長)では、10月19日、部会員17社／28名が参加し、東邦車輛(株)(群馬県邑楽郡)とジェイ・バス(株)(栃木県宇都宮市)の工場見学を実施した。

東邦車輛(株)は、特装／バン／トレーラ部会に所属している。1999年10月に東急車輛製造(株)群馬製作所として設立、その後2010年4月に東急車輛製造(株)より親切分割して東急車輛特装(株)となり、さらに2012年4月に新明和工業(株)の傘下に入るとともに社名を変更している。群馬製作所は敷地面積が約1.1万㎡、延床面積が約3.2万㎡あり、トレーラ、タンクローリ、ダンプトラック、ダンプトレーラ、及び各種特装車を製作している。

タンクローリ用タンクの製造では、日頃みることが出来ない工程を見学でき、参加者から有意義な見学会であったと、好評であった。

また、塗装工場での一度組み付けた部品類を外してから塗装をする等の苦労も良くわかり、車両製造のみならず、品質管理の徹底を含め見学することができ、参加した部会員からは参考になる見学会であったとの声が聞かれた。

ジェイ・バス(株)は、2002年10月に日野車体工業(株)といすゞバス製造(株)が統合し、設立した。

今回訪問した宇都宮工場は、敷地面積が約11万㎡、延床面積が約4.7万㎡あり、主に路線バスを製造しているとのことである。

日頃見ることが出来ないバス用部品製造からエンジン組み付け／シャシ組み立て／バス車体の製造工程全般を見学、また、バス車両製造のみならず、品質管理の徹底を含め見学することができ、大変貴重な体験となった。



東邦車輛(株)見学後の質疑応答

トラック部会

■第4回部会会議を開催

トラック部会(部会長・田村元・㈱浜名ワークス社長)では、京都にて10月25日に13社14名が出席し、本年度第4回の部会会議を実施し、はじめに、新入会員の丸安㈱安藤専務取締役の紹介を行った。

会議では、車体業界及び当会の最近の動きについて説明し、2012年度事業計画の進捗状況報告で、以下の内容の報告と論議がなされ、次回に向けて、委員会毎に事業計画を進捗させていくことが確認された。

(1) 技術委員会

- ・防錆性を考慮した荷台の組立方法の検討
- ・丁番部品の共通化
- ・車体工業会共通版、普通荷台取扱説明書の見直し
- ・環境負荷物質フリー宣言の拡大推進

(2) 業務委員会

- ・会員加入の促進(地域大手会員の正会員化)

今回は、「地域会員の正会員化」の一環として、トラック部会にて勧誘している周辺の対象会社もお誘いし、入会のメリットを肌で感じていただくことができ、非常に有意義な会議であった。



バン部会

■第3回部会会議を開催

バン部会(部会長・川本豊・日本フルハーフ㈱顧問)では、11月21日に11社13名が出席し、本年度第3回の部会会議を実施。

会議では、車体業界及び当会の最近の動きについて説明し、2012年度事業計画の進捗状況報告で、以下の内容の報告と論議がなされ、次回に向けて、委員会毎に事業計画を進捗させていくことが確認された。

(1) 技術委員会

- ・冷蔵・冷凍自動車の保冷車体の資料化
- ・取扱説明書の見直し
- ・バン部会関連、車工会自主基準の見直し
- ・環境負荷物質フリー宣言の拡大推進

(2) 業務委員会

- ・会員加入の促進(地域大手会員の正会員化)

トレーラ部会

■トレーラR13合同試験の開催

9月6日～7日、技術委員会(委員長・印藤義信・日本トレス㈱品質管理室長)では、埼玉県熊谷市にある交通安全環境研究所自動車試験場において、2013年1月に国内導入予定の欧州ブレーキ基準R13シリーズの試験について交通研自動車審査部と合同で実施の可否、試験方法の問題点有無などの確認を実施した。

部会員やサプライヤー15社23名が参加、海コン用3軸トレーラ車とタンクトレーラ車計2台を使用し駐車ブレーキ・ABS機能・制動試験など12項目の確認を行った。その結果、あらたな課題の把握や多くの技術データを収集、共有することができた。

参加会員からは、「合同試験により、結果が共有できたことで大きな成果を得ることができた」と評価する声が多くあった。今後は、交通研自動車審査部と連携し、効率的な試験が行えるように試験方法の改善や標準化を進めていく。



駐車ブレーキ試験:18%坂路



ABS-K値測定:乾・湿アスファルト路

バス部会

■資材委員会を開催

バス部会、資材委員会(委員長・岡崎洋司・三菱ふそうバス製造㈱購買部長)では、10月29日に2012年度事業計画の一環である調達先の共同調査・検討会として、富山の三菱ふそうバス製造㈱の会議室に海外業者(台湾メーカー:2社、フィンランドメーカー:1社、韓国メーカー:3社)を招き、スイッチ、車両用灯具、バス用ドア開閉装置、オルタネーター、ラジエーター等について、プレゼンテーションを行った。プレゼンテーションでは活発な意見交換ができ、また、隣の会議室には各社の部品も展示され、成功裡に終了した。今後は、品質レベルの実力評価と、購入検討を進める。



■塗装技術者向け勉強会を開催

バス部会、塗装デザイン研究会(委員長・高橋朋也・三菱ふそうバス製造㈱技術部生産設計Gデザイン担当)では、2012年度事業計画に基づき10月31日に関西ペイント㈱オートリフィニッシュセンター西日本において「塗装技術者向け勉強会」を開催した。

本勉強会は少量多品種の塗装をしている会員に役立つ情報を提供する場として、2009年から実施しており、バス部会以外からの会員も含め、17社31名の多数が参加した。

関西ペイント㈱の方が講師になり、座学では塗装不具合の修正要領と環境対応塗料の概要について説明していただき、続いて塗装済みドアパネルでのゴミ・ブツ取り作業とソリッド塗色のボカシ塗装要領についての実演講習を受けた。参加者の多くが実際に塗装に携わっている担当者であ



り、更に過去のアンケート結果で最も要望の多かった「自動車補修塗装」に特化した内容としたことで、非常に充実した技術情報を得ることができ、大変有意義な勉強会と、大好評であった。

■(公社)日本バス協会中央技術委員会 整備分科会委員との情報交換会を開催

バス部会、業務委員会(委員長・吉田博明・ジェイ・バス㈱生産管理部長)では、2012年度事業取組みの一環として、11月20日に公益社団法人:日本バス協会より2名、バス事業者より18名の方をジェイ・バス宇都宮工場に招き、主として路線バスの仕様等について、情報交換を行った。情報交換会では、無地塗装ボデーで納車したら安くなる?高速道路走行可能な路線車及び貸切車を復活させてほしい、現行より長持ちする床板は無いのか?等、活発な意見交換を行い、非常に有意義な情報交換会となった。また、今後も引き続き継続して、情報交換会を開催していくことを確認した。

資材部会

■日産自動車㈱ 栃木工場を見学

資材部会(部会長・杉本眞・㈱レシップ社長)では11月30日24社33名で栃木の日産自動車㈱栃木工場を訪問、工場見学を実施した。

栃木工場は宇都宮郊外に位置し1968年にアルミ・鉄の casting、翌年には車軸部品の機械加工・組立を開始した。1971年の組立工場の完成に伴い、車両の最終組立までを行う一貫生産体制を確立。現在ではフーガ、スカイライン、フェアレディZ、GT-R、インフィニティ等の高級車やスポーツカーを生産している。日産の国内工場では最大の面積を誇る工場敷地内には、全長6.5kmの高速耐久テストコースの他、高速散水路や石畳などの様々な環境・条件を想定した各種コースがあるとのことであった。最新の車両組立ラインを見学した参加者からは、有意義な見学会であったとの声が多く聞かれた。



中部支部

■参加し易い見学・講演会開催

中部支部(支部長:石谷清和・(株)東海特装車社長)では、若い人にも参加し易い行事を開催しよう」と3年前からはじめた行事として、11月8日に「東邦ガス防災・危機管理見学・講演会」を開催し、12社・28名が参加した。

知多緑浜工場では、LNG(液化天然ガス)の海外5か国から輸入しており、家庭までのガス製造・流通過程の説明を受けた後、緑化や火災・熱対策等周辺地域に配慮された工場を見学した。地下式LNGタンクは、周りを鉄筋コンクリートの壁で囲むとともに、発熱・火災対策として水幕設備や散水設備が施されていた。

本社では、災害対策本部が設置されていることもあり大地震や停電からビルを守るためのビル免震装置・自家発電装置(写真)や災害対策本部も見学した。有事の際の安否確認システムの整備や、最低限必要な要員を隣接する社宅に確保する等万全な対応であり、講演会では有事の際にも「ガスの確保は万全」であることを確認できた貴重な経験だった。



近畿支部

■秋季研修会・工場見学会を開催



近畿支部(支部長・堀口昇一・須河車体(株)相談役)では11月21日、支部会員23名／18社が参加して大日本塗料(株)小牧工場の工場見学会を実施した。

今回は素材加工工程の見学で、見学に先立ち小牧工場の成瀬次長(生産部門担当)から会社概要等の説明を受けた。精密な装置の中は見る事ができなかったが、原材料

の調達から出荷までのプロセスが一元管理されており、お客様のニーズに問題なく対応で来るような体制が取られていることがよくわかった。

また、近年、粉体塗装がかなり増えてきている中、原材料生産工程を知ることができたのは今後の営業活動に活用できるとのことで、参加した支部会員も「有意義な見学会だった」と好評裏に終了した。

中国支部

■(株)イズミ車体製作所 工場見学会を実施

中国支部(支部長・大上力夫・(株)大上自動車工業社長)では、2012年11月9日に熊本県の(株)イズミ車体製作所を訪問し、工場見学を実施した。

(株)イズミ車体製作所は、1951年に設立され、高い技術力を持ち、検診車をはじめとした特種車両製造をしている。工場内は整頓され風通しがよく、工程・品質管理も徹底して行われていた。また、従業員は若い人が多く、非常に元気のある活気にあふれた空気が印象的であった。見学中、見学後の参加会員からの質疑応答も製造のことから経営に



関することまでさまざまなかものであったが、たいへん詳しく説明をいただいた。

四国支部

■四国支部秋季研修会開催

四国支部(支部長:池浦雅彦・(株)タダノ執行役員)では、10月19日～20日に四国電力(株)伊方原子力発電所・原子力保安研修所並びに松山太陽光発電所を見学。13社15名が参加した。伊方原発では福島事故を教訓に更なる地震・津波対策を二重三重に備えた現場を見学。今後も再稼働に向け継続的に安全対策を進めて行くとの説明があった。活発な質疑応答もあり、福島原発の処理が進まない(見えない)現状もあり、参加者の原発への関心が高い様子であった。



保安基準一部改正について

国土交通省

国土交通省は11月16日付けで保安基準の一部を次のとおり改正した。改正概要は次のとおり。

1. 低速走行時側方照射灯(低速での走行を支援するための車両側方への補助的照明として使用される灯火)
(保安基準第33条の3(新規)、細目告示第44条の2(新規)、別添52条関係)

【適用対象】

製作日が2012年11月18日以降の自動車

【改正概要】 次に掲げる操縦灯を備えることができる。

- 色：白
- 個数：1又は2(2個の場合は自動車の側面に1個ずつ)
- 方向：下向き
- 光度：500カンデラ以下
- 電気結線：前照灯が点灯していない場合、点灯できない構造であること。

2. 車室外乗降支援灯(乗降等を支援するための補助的照明として使用される灯火)(細目告示別添52関係)

【適用対象】 型式の指定を受ける日が2017年11月18日以降の自動車

【改正概要】

- 個数：「無制限」から「2個」に変更
- 非視認性要件：「後方15°方向の決められたゾーンから、見かけの表面が視認できないこと」から「規定の領域から車室外乗降支援灯の見かけの表面が視認できないこと」に変更する。

審査事務規程第59次改正(改造自動車等)について

自動車検査法人

自動車検査法人は9月19日付けで審査事務規程の一部を次のとおり改正した。

1. 改造自動車の範囲

(1)改造自動車の範囲(車体車枠の2分の1の考え方等)の明確化と改正

連続して2分の1以上の車体車枠が残されたものを「改造自動車」としているが、ホイールベース短縮時に対応が出来ないものがあり、その対応策として、ホイール

ベース短縮時に限り、提出された車枠・車体図等により2分の1以上が残されて製作されていることが明確なもの、改造自動車」として扱える。

2. 不正使用対策

- (1)自動車の審査終了後、不正に使用する蓋然性が高い状態(タイヤのみの取り外しにより、軸数を減ずるもの)を明確化し、不適切な補修等の規定に追加する。
- (2)試作車・組立車の現車確認について、提示があった自動車と試作車組立車審査結果通知書(本紙又は写しとする)、外觀図、各装置の詳細図及びその他、特に指示された資料に記載されている自動車との同一性確認事項を明確化する。

〈詳細は以下を参照〉

<http://www.navi.go.jp/release/20120921-1.pdf>

労働災害減少に向けた緊急要請について

厚生労働省労働基準局安全衛生部安全課

労働災害による休業4日以上死傷者数は2010年、2011年と2年連続で増加し、このような事態は、実に33年ぶりのこととなった。

この間、厚生労働省においては、労働災害が増加傾向にある業種に対し集中的な指導を実施してきた。しかしながら2012年度になっても、その傾向に歯止めがかからず、今年度の8月末までの発生件数は昨年度比7.9%の増加となっている。

この傾向が続けば3年連続で労働災害が増加するという憂慮すべき事態も想定され、関係団体と連携し、取組強化を図る。

〈詳細は以下を参照〉

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002krc7.html>

高齢者雇用安定法Q&A

(高齢者雇用確保措置関係)

厚生労働省

急速な高齢化の進行に対応し、高齢者が少なくとも年金受給開始年齢までは意欲と能力に応じて働き続けられる環境の整備を目的として、「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」(高齢者雇用安定法)の一部が改正され、2013年4月1日から施行される。

厚生労働省では、よくある質問を1問1答形式でまとめ、公表した。

〈詳細は以下を参照〉

<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/anteikyoku/kourei2/qa/index.html>

新環境基準 適合ラベル

通称:ゴールドラベル



環境基準
適合ラベル

環境に優しい
+ 3つの
追加要件!



新環境基準
適合ラベル

車体製品部材の
リサイクル可能率 **95%以上**

車体工業会における
環境負荷物質自主取り組み
基準を満たしている

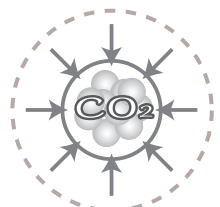


ISO14001やエコアクション21など
第三者機関による
環境認証取得工場
で生産されている

生産における環境保全

日本自動車車体工業会では自主行動計画を策定し、関係団体と連携を取りながら積極的な取り組みを進めています。

省エネルギーの推進
(地球温暖化対策)



目標
1990年度比
25%低減

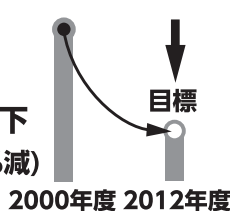
産業廃棄物
最終処分量の低減

目標
2015年度に
0.77万トン以下
(2000年度比71%減)



VOC(揮発性有機化合物)の
排出抑制

目標
2012年度に
原単位51g/m²以下
(2000年度比50%減)



一般社団法人 **日本自動車車体工業会**
Japan Auto-Body Industries Association Inc.

東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館15階 TEL(03)3578-1681 FAX(03)3578-1684

2012年工業統計調査を実施します

会員の皆様も調査にご協力願います。

工業統計調査

政府統計
統計法に基づき国の統計調査です。調査結果は国の政策の立案に活用されます。

皆様の回答をお願いします。

調査期日
平成24年12月31日

経済産業省・都道府県・市区町村
<http://www.meti.go.jp>

中小企業の取引上の 悩み相談室

ご活用ください。

下請かけこみ寺
中小企業の取引上の悩み相談を相談員や弁護士が受け付けます。☎0120-418-618

相談無料・秘密厳守・匿名可能

無料相談
中小企業の取引上の悩みの相談に企業経営者や下請代金主などに詳しい相談員が無料で相談に応じています。必要に応じて相談員の近くの弁護士に無料で相談を行うことができます。

調停による紛争解決
中小企業が抱える企業間取引に生じる紛争を無料でも迅速・秘密に解決するための調停(裁判外紛争解決(ADR)手続)を無料で提供します。詳しくは、下請かけこみ寺にお問い合わせください。

調停(ADR)の主なメリット
①紛争当事者間の和議の調停を行います。
②裁判と異なり非公開で行われるため、当事者以外には秘密が守られます。
③当事者が合意すれば、自由に調停費用、時間等を定めることができます。

第9回 日本自動車会館交通安全 安全キャンペーンが開催

日本自動車会館の入館法人で構成する「日本自動車会館運営委員会」により、秋の全国交通安全運動期間中の9月26日に「第9回日本自動車会館交通安全キャンペーン」が開催された。

イベント当日は、近隣の御成門小学校の1年生を対象とした、自動車の死角や盲導犬の交通安全勉強会を開催した。小学生にクルマの死角について説明を行い、クルマの周りでは絶対に遊ばないように注意したほか、日本盲導犬協会に盲導犬を連れてきてもらい、その理解活動を行った。

また、自動車技術会主催の学生安全技術デザインコンペティション(研究発表会)で本年最優秀賞を受賞した東京大学大学院及び東京都市大学大学院による交通安全技術プレゼンテーションも開催された。

さらに、本イベントへの若者の参画を図る意味から始めた交通安全ポスターのデザインコンテストも実施、「家族で広げよう交通安全」をテーマとし、応募数は22作品が寄せられた。最優秀作品は、鄧宇均(とう・うきん)さんの「お守り」を用いてデザインした「安全運転 家族の御守り」が選ばれた。



鄧宇均(とう・うきん)さんの作品「安全運転 家族の御守り」

9月		
3日	特装部会／サービス委員会	①特装車メンテナンスニュース(車両管理ポイント編)の原案作成 ②建設機械工業会における部品供給年限に関する調査報告
4日	トレーラ部会／業務委員会	①トレーラABS普及促進方策論議 ②トレーラ輸送有効性の訴求資料作成検討
	中央技術委員会／WG/ISO26262会議	①ISO26262対応に関する懸念事項、車工会の対応方針論議 ②各車種のE/Eシステム・モデルを作成して、自工会と協議予定
5日	商用車ショー企画委員会	①出展意向調査結果の報告 ②働くクルマ合同展示の大幅拡充の方向決定
6日～7日	トレーラ部会／技術委員会(埼玉)	トレーラR13法規確認方法の合同トライアル試験実施(場所:交通安全環境研究所自動車試験場)▶P.17
7日	支部連絡会(香川)	①地域会員大手の正会員化活動の確認 ②支部事業計画の共有化、よいとこ取り活動の説明 ③(株)タダノ志度工場の見学会実施▶P.15
11日	トレーラ部会／サービス委員会	①ブレーキ機器点検に關しての啓発資料検討 ②点検整備方式の見直し内容検討
12日	環境委員会／架装物リサイクル分科会	①架装物リサイクル座構審結果報告 ②環境の適合ラベル普及目標の検討・合意 ③環境負荷物質フリー宣言進捗状況まとめ
	特種部会／第4回座席WG	①2人掛け座席開発再評価実施:継続 ②2人掛け座席構造/床構造の論議:10末までに決定予定 ③新法規適用以降の検査・登録状況の共有化
14日	特装部会／技術委員会	①JABIA規格の原案を作成 ②石油類混載ローリ車の安全な積載方法の策定について検討
	バス部会／資材委員会(石川)	調達先の共同調査の検討
18日	環境委員会／工場環境分科会	①2011年度CO2、VOC排出量結果報告・確認 ②バウンダリー変更への進め方報告 ③2012年度産業廃棄物最終処分量調査の進め方合意
20日	特種部会／#2技術業務合同委員会	①車体直付けベルト(20G対応)の規格作成を決定(～3末) ②医療防疫車用語統一追加のアンケートを論議
21日	トラック部会／技術委員会	①防錆性を考慮した荷台の組立方法の検討 ②丁番部品の共通化検討 ③普通荷台取扱説明書の見直し
	労政合同勉強会(東京)	改正労働派遣法の勉強会(講師:日本経団連) 情報交換:「派遣労働者の活用」について
24日	中央技術委員会	①後部反射器50%遮蔽の対応まとめ ②部会調査研究(テーマ)の進捗状況確認 ③新規検査等に提出する事前入力ソフト説明会(講師:検査法人)
24日～10月3日	欧州視察	2012年欧州IAA国際モーターショーを視察▶P.8 ・ダイムラートラック社視察　・キーンレ社視察　・パリ国際モーターショー視察他
25日	第3回高齢者雇用推進委員会	①アンケート調査結果中間まとめ報告 ②ヒアリングの調査について計画▶P.14
26日	トレーラ部会／製品安全委員会	①点検整備方式の見直し内容検討 ②トレーラ定期点検整備の手引き」の見直し検討
27日	トレーラ部会／技術委員会	①ブレーキ機器点検啓発の進め方論議 ②後部反射器遮蔽対応、巻込防止装置の自主基準についての論議 ③JABIA規格の見直し内容論議・合意

28日	環境委員会	①2011年度CO2、VOC排出量結果報告・確認 ②バウンダリー変更への進め方報告 ③環境負荷物質フリー宣言進捗報告と今後の対応決定▶P.13
	バス部会／ワンマン機器小委員会(石川)	①ステップ照射灯のLED化検討 ②LED行き先表示器のJABIA規格補足版の検討 ③ドライブレコーダー装着時の不具合対策検討

10月		
2日	特装部会／業務報告会(神奈川)	①技術委員会/業務委員会/サービス委員会の事業計画進捗の確認 ②部会員の環境負荷物質フリー宣言のフォロー強化実施
3日	トラック・バン部会／合同業務委員会	①地域大手会員の正会員化検討 ②販売・生産状況報告
5日	第2回中央業務委員会	①中小企業支援策アンケート結果のまとめ報告 ②2013年度税制改正要望の決定▶P.14
	バス部会／塗装デザイン研究会	①塗装技術者向け勉強会の事前準備 ②バス車体用塗色見本帳の改訂準備
9日	特装部会／脱着キャリア・コンテナ合同分科会	①JABIA規格「脱着キャリア降下防止装置(案)」の検討 ②脱着キャリア2トン/4トン車の互換性調査結果の報告
10日	トレーラ部会／サービス委員会	①今冬のブレーキ機器点検啓発進め方論議 ②ブレーキ機器点検啓発資料論議
	バス部会／技術委員会	①車体規格集、補足版の発行検討 ②ECEシート、JABIA規格の素案作成 ③特別支援学校向け養護者シート、安全性確認試験のシート仕様と試験日程の検討
12日	バン部会／技術委員会	①経年品質保証に関する統一基準策定 ②車工会自主基準の見直し(リヤフェンダ)
16日	テールゲートリフタ技術分科会	①後部反射器50%遮蔽の基準緩和内容(追加反射器取付位置)周知 ②JABIA規格「テールゲートリフタ構造基準」の見直し検討中
18日	第218回理事会	①審議事項 第1号議案 新入会員に関する件 ②報告事項 1) 2012年度事業計画 本部・部会別2/4期実績まとめと課題 2) 2012年度2/4期 収支実績まとめ 3) 2011年度会員企業の売上高従業員数まとめ 4) 2011年度PL事故事例と再発防止策について 5) CO2及びVOC排出量フォローアップ結果 6) 2012年度の調査研究業務の進捗状況と課題 7) 高齢者雇用推進事業の進捗状況報告 8) 車体業界将来ビジョン策定の検討状況と課題 9) 環境負荷物質フリー宣言早期100%化の進捗状況報告 10) 地域会員大手の正会員化 進捗状況と課題 11) 東京モーターショー2013「働くクルマの合同展示」について 12) 2013年度 税制改正に関する要望書 13) 商用車販売台数及び会員生産台数について 他
		改正労働契約法、改正労働者派遣法、改正労働、改正高年齢者雇用安定法等の説明(講師:日本経団連)
		①第2章「業界及び企業の持つ強みと弱み」ドラフト報告 ②第3章「業界及び企業成長可能性と懸念点」への対応調整
		①(社)日本陸送協会、合同研修会の議題検討 ②JABIA規格(車両運搬車の構造要件)の見直し検討
19日	トラック部会／車輛運搬車分科会	①(社)日本陸送協会、合同研修会の議題検討 ②JABIA規格(車両運搬車の構造要件)の見直し検討
	特種部会／工場見学会(群馬、栃木)	①東邦車輛(株)の工場見学実施(群馬県) ②ジェイ・バス(株)の工場見学実施(栃木県)▶P.16
22日	特装部会／サービス委員会	①特装車メンテナンスニュース(車両管理ポイント編)の原稿完成 ②メンテナンスニュースの印刷部数、送付先決定▶P.16
23日	特種部会／#5座席W/G	①2人掛け座席構造案/床構造案の論議 ②車体直付けベルト(A1302)の適合証明について

10月		
24日	ISO26262W/G	①走行に関する部分はISO26262の規定に従い、作業中は作業機としての安全規格(ISO13849等)に対応 ②トレーラ及び特装車の代表的モデルについて今後の進め方合意
25日	トレーラ部会／技術委員会	①R13合同試験結果報告 ②巻込防止装置の自主基準検討・合意 ③R58改正提案に対する検討・合意
	トラック部会(京都)	①2012年度事業計画2/4期の進捗状況報告 ②工場見学開催日と開催場所について報告
26日	欧州視察編集会議	①IAA国際モーターショーの報告書作成
29日	特装部会／清掃車小委員会	①点検時期/部品交換時期の共通化検討 ②安全確保用警告灯の基準緩和拡大の検討
	バス部会／資材委員会(富山)	三菱ふそうバス製造(株)にて海外からの部品調達を検討するため台湾メーカー2社、フィンランドメーカー1社、韓国メーカー3社を招いて、プレゼン実施
30日	トレーラ部会／製品安全委員会	①点検整備方式の見直し内容検討 ②点検整備の促進啓発活動検討・合意
	バス部会／塗装デザイン研究会(大阪)	バス車体用塗色見本帳改訂について打ち合わせ
31日	バス部会／塗装技術者向け勉強会(兵庫)	関西ペイント(株)オートリフィニッシュセンター西日本にて、補修・塗装方法についての座学とゴミ・ブツ取り作業、ソリッド塗色のボカシ塗装要領について実演見学

11月		
2日	特装部会／塵芥車技術分科会	①積込方式及び取扱説明書用語の統一化検討中 ②定期交換時期の統一化検討中
3日	第4回高齢者雇用推進委員会	①アンケート調査集計分析結果報告 ②ヒアリング調査分析結果報告
6日	トレーラ部会／サービス委員会	①今冬のブレーキ機器点検啓発進め方検討・合意 ②ブレーキ機器点検啓発資料論議
9日	トラック部会／技術委員会	①丁番部品の共通化検討 ②普通荷台取扱説明書の見直し
14日	中央技術委員会／突入防止装置技術委員会	①現行の強度を2倍に引き上げるドイツ改訂提案に対する対応方法の検討 ②技術的な対応資料の検討
16日	トラック部会／車輛運搬車分科会(東京)	(社)日本陸送協会と、車輛運搬車の生産状況について情報交換
19日	特装部会／サービス委員会	①メンテナンスニュースNo.32(定期交換部品編)の原稿案の検討 ②工場見学会の企画・立案
	トレーラ部会／製品安全委員会	①点検整備方式の見直し内容検討・合意 ②点検整備の促進啓発活動検討・合意
20日	特種部会／#6座席W/G	①2人掛け座席構造の決定 ②20G対応座席ベルト取付構造対応論議
	商用車ショー企画委員会	①出展意向状況の確認 ②正式申込書の決定と今後の日程確認
	バス部会／業務委員会(栃木)	ジェイ・バス(株)宇都宮工場にて、(公社)日本バス協会のバス事業者と、主として路線バスの仕様統一について情報交換実施
21日	バン部会	①2012年度事業計画2/4期の進捗状況報告 ②工場見学開催日と開催場所について報告
22日	特装部会／脱着キャリア技術分科会	①新型4トンキャリア1車種の互換性審査会実施(基準適合) ②脱着キャリア安全棒(降下防止装置)のJABIA規格案の検討
26日	特装部会／工場見学会	①極東開発工業(株)横浜工場の見学会実施 ②会員会社16社27名出席
27日	中央技術委員会／WG/ISO26262会議	①乗用車のASIL(危険度)導出事例の説明(説明者:日本自動車研究所) ②ハザード分析(障害度)及びASIL評価の実施

28日	秋季会員大会(東京)	2012年度秋季会員大会を開催 場所:浜松町東京會館 講演会テーマ[大型トラック・バスの需要動向と架装メーカー殿に望むこと] 講師:いすゞ自動車(株)、いすゞ自動車販売(株)
29日	トレーラ部会／技術委員会	①R13導入における課題集約と検討 ②点検整備方式の見直し検討・合意 ③ブレーキ機器点検啓発の進め方論議
30日	広報委員会	①年度広報活動計画の進捗状況確認 ②車体NEWS記事、冬号の校正確認と2013春号企画合意
	バス部会／塗装デザイン研究会	①(株)南海とバス用塗色見本帳の見積もりについて討議 ②関西ペイント(株)と塗装技術者向け勉強会の纏め
	資材部会	①日産自動車(株)栃木工場 見学会を実施 ②情報交換会を実施

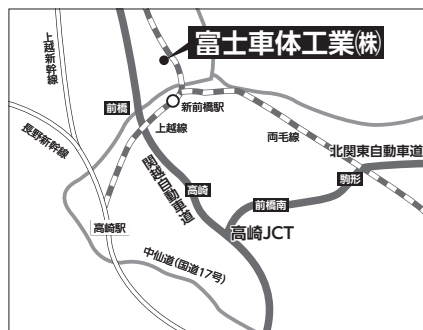
会 員 情 報	
■ 入 会	
正会員	(株)カンシャ 代表取締役 竹花 正樹 〒041-1221 北海道北斗市清水川226-11 電話：0138-77-1281 FAX：0138-77-1461 主要製品 平ボデー、重機運搬車 所属部会 トラック部会
(株)ケイエムオー 代表取締役 神尾 秀男 〒379-2213 群馬県伊勢崎市五目牛町324-5 電話：0270-63-0332 FAX：0270-63-1770 主要製品 医療防疫車、身障者向リフト車 所属部会 特種部会	
(株)ティービーエム 代表取締役 松枝 俊博 〒869-0404 熊本県宇土市走湯町403-1 電話：0964-23-0505 FAX：0964-23-0550 主要製品 トラックボデー、バン型車 所属部会 トラック部会	
(株)トイファクトリーインターナショナル 代表取締役 藤井 昭文 〒904-2234 沖縄県うるま市宇州崎12-92 電話：098-987-5660 FAX：098-987-5661 主要製品 キャンピングカー、特種用途車両、福祉車両等 所属部会 特種部会	
丸安(株) 代表取締役 安藤 義和 〒470-0224 愛知県みよし市三好町八和田山5-126 電話：0561-34-2272 FAX：0561-34-3887 主要製品 ワンタッチ幌ボデー、ウィングボデー 所属部会 トラック部会	
山本車体工業(株) 代表取締役社長 山本 良太郎 〒891-0132 鹿児島市セツ島1-3-2 電話：099-261-3131 FAX：099-261-3140 主要製品 平ボデー 所属部会 トラック部会	
■ 分社・名称変更	
正会員	鉄道車輛工業(株) → 飛鳥車体(株) 代表取締役社長 高場 常喜 〒192-0918 東京都八王子市兵衛2-35-1 電話：042-683-0083 FAX：042-632-5306
■ 本社移転	
準会員	平本工業(株) 〒482-0012 愛知県岩倉市稲荷町半田655 電話：0587-66-3131

2013年 自動車関係4団体共催 ～新春賀詞交歓会のご案内～			
◆日 時	2013年1月7日(月)	16:00～17:30	
◆場 所	ホテルオークラ「平安の間」	東京都港区虎ノ門2-10-4	TEL：03-3582-0111
◆参 加 費	1名につき10,000円		
◆問い合わせ先	一般社団法人日本自動車車体工業会	総務部	

技術発表会のご案内		■日 時	2013年1月25日(金) 14:30～17:00
		■場 所	日本自動車会館1階 くるまプラザ会議室
		■内 容	会員各社の新技術、新製品に関する発表5件



角田 喜一 代表取締役社長



DATA

- 本社
〒371-0854
群馬県前橋市大渡町2丁目1番地4
TEL 027-251-5788(代)
FAX 027-251-1072
URL: <http://fujishatai.com/>
- 資本金 1,000万円
- 従業員 40名
- 事業所規模
敷地 約11,500㎡
工場 約 6,027㎡
- 車体工業会加入
1978年(トラック部会)



富士車体工業(株)

膨大なノウハウと技術力の職人集団。 2012年は新たな挑戦へ。

富士車体工業(株)のある前橋の澄み切った青空には上毛三山と浅間山がよく映えていた。冬の時期になると赤城おろしと呼ばれる冷たい強風が吹くとは思えないほど、秋晴れの好天に恵まれた取材日であった。

取材／車体工業会事務局次長 瓜谷 優一

● 特徴・沿革

富士車体工業(株)の前身である富士酸素工業所は先代社長が1936年に創立。アセチレンガスでの溶接を得意とし、農機具の製造や修理などを行っていた。戦後にはじまった復興景気でリヤカーの需要が急増。少年時代、あまりの忙しさに家族総出でリヤカーのフレーム塗装を手伝っていたという角田社長は、作れば作るだけ売れていったことを覚えている。

昭和30年代に入ると近隣に自動車関連のメーカーが数多く進出。同社ではトラックの幌架装や二重あおり架装など、自動車関連の仕事が急増していった。自動車は車庫スペースが必要なため、1965年に前橋に石倉工場を増設し、農機具関連の業務を移行させた。1972年、増え続ける自動車架装に対応するため、さらに工場を拡充し、現在に至っている。

「お客様のわがままをご相談ください」をモットーに、特装車の特の字

が付いたら何でも相談を受けて、具現化してきた実績を誇る。80年近く、長い歴史の中で、軽から大型まで同社のノウハウは広範囲に渡る。

今年2012年、富士車体工業(株)は、「軽自動車特装車ラインナップ」の展開を開始。長い経験と培ってきた技術による製品を広く一般へ販売する新しい業務へ挑戦している。



● 製品

― 御社の製品などについてお聞かせください。

角田社長 簡単な二次架装や修理はもとより、お客様の要望を具現化することに力を入れております。創業以来、77年という長い歴史の中で多くの商用車の架装を手がけさせていただいてきました。

最近では「被災地の子どもにピザを送りたい」というプロジェクトの依頼で、ピザ焼窯とキッチンを搭載した改造車を製作しました。他にも空港配備用の医療資材運搬車など特殊な車両も製作いたしました。



被災地の子どもに焼きたてピザを食べさせるための焼窯搭載キッチン車



空港での大事故を想定し、大勢の患者用の大量の薬などを搭載する緊急対応用トレーラー付コンテナ車



ラインナップ商品のエアスポイラー



軽ダンプ架装

― 力を入れている製品は何でしょうか？

今年から、新しいチャレンジとして、これまで培ってきた技術で「軽自動車特装車ラインナップ」商品の一般販売を始めました。運送組合とタイアップして開発した軽トラック用のエアスポイラーは高速道路等で高い効果を発揮しますので好評をいただいております。



富士車体工業(株)のホームページには様々な種類の架装の実績例が掲載されている。

― 今後の抱負、方向性などはいかがですか？

景気の不透明な時代であります。が、通常の架装業務に加えて、今年始めたばかりであるラインナップ販売業務をゆっくりと成長させていき、100年企業の仲間入りを目指したいと思います。

● 人

― 御社の特徴は？

“こんな車にして欲しい”というお客様に、社員一同が心から喜んでもらえるような製品作りを念頭において仕事に励んでおります。

「特装車」についてのプロ職人集団として、お客様はもちろん、自分たちも納得のいく商品にするために、従業員の仕事に対する取り組みや創意工夫、モノづくりへのこだわりを大事にしています。

― 次世代への教育について

熟練工も新人も同じ現場で、仕事を一緒にしながら、マンツーマンで技術の継承を中心に指導。グループにおいては、最初から最後まで業務



に関わることで、若い従業員の責任感、思考力を高めていくようにしております。



時には議論を交え、時には黙々と、お客様が喜ぶ製品を作り続けている。

プロフェッショナルとしての提案

(株)松沢商会は1969年創業。新潟に本社、仙台、福島に営業所を有し、用途に応じた多種多様の材料、部品を架装メーカー等の会社に提供している。優良かつ多品種の商品を取り揃え、豊富な在庫と迅速な配送をモットーに、お客様へのサービスの拡充に日々努めている。

膨大な量の商品を扱わなくてはならない商社の営業マンは最新情報の入手とともに、商材についての豊富で細かな知識、どのお客様に対してどの商材が適しているのかを見極める力が必要とされる。一人前になるには相当の年数を要し、お客様と接するという点を考えると、技術系の職人以上に長い経験と知識が必要な仕事だ。

■ お客様に好評であれば自信を持って売れる

営業マンを悩ませることのひとつが、完全な自信を持って営業することができないような全く新しい商材だ。カタログ上では良い商品だとわかっていても、自社で苦労して作り上げたわけではない製品を、絶対的な自信を持ってお勧めすることは難しい。そのため仕入れの在庫を抱えながら、お客様の協力を得て少量ずつ導入してもらうことも多いという。そうして実際に使用している現場からのフィードバックによって、ようやく商品の良し悪しをお客様の立場で体感的に感じられるようになることができるのだ。それまでは、せっかくの新しい商材でもプロフェッショナルとして自信を持って売ることはできないという。

■ ドイツ製硬質床材「ファゴテックス」

かなり以前からアピトン材、アカシア材に替わる優れた床材を探し続けていた。その中で見つけたのが耐久性に優れたドイツ製のブナ板合板「ファゴテックス」である。北欧製のカバ材と比較して硬度が40%も硬く、従来大型車で21mmの厚さが必要だった所を18mmでの軽量化を提案。



松澤 寿一
常務取締役 信越支店長
(2001年入社)

山田 正照
執行役員 東北支店長
(1989年入社)
東北地区総括&商品・サービスの開発

(株)松沢商会



負荷をかけたテスト



一般的な木材

ファゴテックス

さらに樹脂フィルムコーティング加工により、抜群の耐摩耗性を誇り、摩耗・損傷を防ぐ高い実績を実現している。車両自体が長寿命化していく中で期待される床材だ。ドイツは長い歴史の中でブナ林を大切に育ててきているので、安定的に供給できる床材であることも安心である。耐久性についてはお客様の評価も高く、年々出荷高は上昇しているが、ブナの床材ということもあり、この優れた商材も、自信を持ってセールスできるまでには時間を要したという。

■ 付加価値を付けた製品を強化

水上がり防止用の「ユカプルーフ」は、最大幅2,390mmを誇る長尺の防水シートだ。350m巻きなので継ぎ目のない1枚敷きで施行することができ、水上がりによる荷物の水濡れを従来の施工方法よりも防ぐことができる。しかし、



手製のキャットニングマシン

仕入れロットが350m×12巻と膨大であるので、倉庫内に手製のキャットニングマシンを製作し、お客様の希望サイズにカットして、ひと手間かけた納品を行っている。別の商材では、単純な加工だけでなく、架装しやすいように接続部品などを自ら設計、協力工場に発注してオリジナルで製作する等も行っている。このように様々な手を加えて提案する製品群を強化している。

注文に対して仕入れて売らただけでなく、経験を積んだ営業マンがお客様の立場で考え、優れた商材を見つけ、加工や製作などの様々な付加価値をつけて提案していく。業界のために商社ができることを松沢商会は常に考えている。

(株)松沢商会

代表取締役 松澤 昌雄

(株)松沢商会は「プロフェッショナル」という使命感のもとに情熱と意欲をもって、積極的に仕事に取り組もうとする「個性派集団」です。

【本社】〒950-0322 新潟市江南区岡川1丁目1201番地13
Tel:025-280-7272(代) <http://www.matuzawa.com/>

私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。

「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

環境保護と林業再生で安定供給を

信和自動車工業(株)

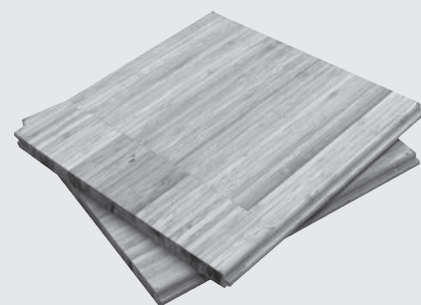
信和自動車工業(株)は1950年創業。新車トラックのボデー部品のすべてを総合的に取り扱い、企画・販売から加工・製造まで行う。大阪本社を拠点に福岡、厚木、栃木に営業所を持ち、九州から北海道までをカバーしている。

床材の安定供給

熱帯雨林保護のため、アピトン材の替わりの材料が求められている。木材は家具メーカーなども材料に使うため価格が上昇するなど世界的な不足が続いている。早急に安定供給できる優れた床材を探さなくてはならなかった。

■ 「グリーンボード竹床」

そのような中で見つけたのが竹の合板だ。中国の大手海上コンテナメーカーが2004年頃から、コンテナの床材向けに開発を始めた。中空のため木材のように扱うのが不向き



竹100%の合板「グリーンボード竹床」

であった竹だが、長さ8m・厚さ30mmほどに育った時点で伐採し、細長くカットした竹を専用の樹脂で圧着する独自製法で板材に成型することに成功した。しかし長くするとソリが出やすくなるため、床材にするには長さが足りなかった。長い尺の板材を作るには、縦方向に接着するのだが強度を保つ接着方法がなかなか見つからなかった。そこで当社が、様々なメーカーを知っている商社のメリットを生かし、合板を得意とする日本のメーカーを紹介し、試行錯誤

の結果、スカーフジョイントという最適なジョイント方法による長尺化が実現できた。

木材に比べて加工の工程が多くなっているため、竹といえども安いとはいえないが、強度と軽さ、そして将来性という点において、アピトン材よりも優れた床材が完成したのである。

取扱いを始めてまだ2年であるがリピーター需要も見えはじめ、床材出荷全体の3割近くまで伸びてきている。日本の業界全体の環境への意識の高まりを感じるという。

■ 環境保護と日本の林業の復興へ

製造元であるコンテナメーカーとは開発期間を含めて、長い信頼関係を培ってきた。しかし、すべて中国生産であるため、地政学的リスクは常に存在していることは否めない。安定供給のために国産化したいのが本音だ。

島津社長は安定供給と環境保護、そして国内産業の育成という3つの観点から、この材料の国産化を力説する。

材料として使えるまでにアカシアが15年、アピトンが60年という歳月を費やすのに比べて、竹は3～5年という驚異のスピードで成長する。さらに一度植樹するだけで地下茎が横に広がり、永続的に自然繁殖するため、植林する必要がない資源である。

孟宗竹は日本でもよく見かけ、丈夫で土壌をそれほど選ばないので国内の様々な山林で十分に生育することができる。コスト面では人海戦術で作る中国に対して、製造工程を自動化することで競争も可能になるという。



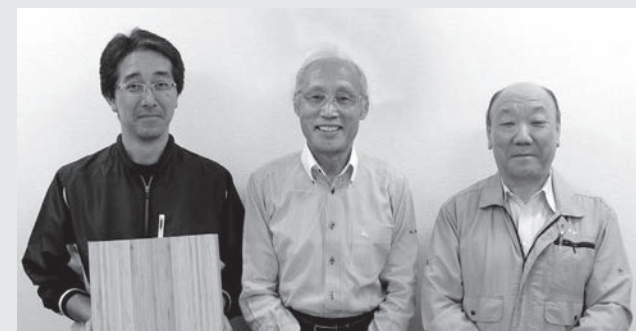
自給率が低下してしまった日本の林業再生と、床材の安定供給を両立するために、竹材の利用が床材だけでなくもっと大きなムーブメントになることを目指している。

信和自動車工業(株)

代表取締役社長 島津 実

最適な部品を提供することで培われる信頼が私たちの財産です。調和のとれた美しいキット部品をわずかな歪みも許さず作り上げます。

【大阪本社】〒530-0003 大阪市北区堂島3-3-19
Tel : 06-6458-5661 <http://www.shinwa-jikoh.co.jp/>



黒岩 健次
営業課長
(1989年入社)
営業担当

島津 実
代表取締役社長
(1971年入社)
経営全般

鳥越 実
常務取締役
(1968年入社)
厚木支店

「超小型モビリティ」とは？

最近、新聞や雑誌で超小型モビリティという言葉を目にすることも多く、また展示会等でたいへん小さな、かわいい4輪車の出展も目立つようになってきた。そのかわいさからかなり目立つ存在であるが、まだまだ普及しているとは言えない台数である。

これからの省エネ、高齢化社会を考えると、今後の普及拡大が必要なジャンルと思われるため、今回はそれらの「超小型モビリティ」について調べた。



Q1 超小型モビリティとは？

まだその定義は未確立だが、一般的に自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動の足となる1人～2人乗り程度の車両で原付自転車以上で軽自動車未満のイメージ。

道路運送車両以外		道路運送車両			
施設・歩道走行		車道走行			
定格出力 (電動自動車)		0.6kW以下	0.6kW超 -1kW以下	1kW超	
エンジン排気量 (内燃機関自動車)		50cc以下	50cc超 -125cc以下	125cc超 -660cc以下	660cc超
三・四輪車	歩行補助用具 (免許不要) ・時速6 km以下 ・車検なし ・全長:1,200mm 全幅:700mm 全高:1,090mm 	第一種原動機付 自転車 ・衝突基準なし ・車検なし ・乗車定員1人のみ ・高速道路走行不可 ・全長:2,500mm 全幅:1,300mm 全高:2,000mm 	軽自動車 2人乗りの 超小型モビリティ 乗車定員2人は、軽自動車 以上でしか認められていない。  		小型自動車 又は普通自動車 ・衝突基準あり ・車検あり ・乗車定員4人 ・高速道路走行可 ・全長:3,400mm 全幅:1,480mm 全高:2,000mm 
	搭乗型移動支援 ロボット等 	サイズ等によっては、 原動機付自転車 又は自動車の区分となりうる			
二輪車 (側車付二輪自動車を含む)		第一種原動機付 自転車	第二種原動機付 自転車	軽二輪自動車又は小型二輪自動車	

<国交省ガイドラインより> 現行の道路運送車両法に基づく超小型モビリティの位置付け

Q1-1 現在の道路運送車両法 保安基準から見た分類は？

- ① 1人乗りで排気量50cc以下/定格出力0.6kw以下(例:トヨタコムス)は第1種原動機付き自転車の分類(4輪車のためヘルメット着用義務はなく、最高速度60km/h、車検制度なし)
 - ② 2人乗りや排気量50Ccc超/定格出力0.6kw超(例:日産モビリティコンセプト)の場合は軽自動車の分類
- なお国土交通省ではこれら車両の特殊性を考慮し一部保安基準の緩和検討の動きも出ており、高速道路走行等をしない車両のシートベルト強度、灯火器、衝突基準の緩和した「超小型モビリティ認定制度」に関してパブリックコメントを募集中である。

Q1-2 運転免許制度から見た 分類は？

4輪車であるため軽自動車同様に普通運転免許が必要である。
なお、シニアカー等の名称で発売されている電動車いすの類は免許不要である。

Q1-3 自動車税制から見た 分類は？

トヨタコムスのような1人乗りの場合は原付き4輪車となり2,500円/年。
日産モビリティコンセプトのような2人乗りの場合は軽自動車扱いで7,200円/年。(現在はエコカー減税でEV車は実質ゼロ)

Q2 その構造は?(トヨタコムスの例)

主要諸元	■ 乗車定員、積載	1名+30kg
	■ 全長×全幅×高	2,395mm×1,095mm×1,500mm
	■ 車両重量	410kg
	■ 価格	66.8万円～79.8万円 (補助金 7万円)

鉛バッテリー

近距離移動には十分な満充電で約50Km(JC08モード相当)の走行距離。
電気料金は満充電1回あたり約120円(23円/KWh時)。家庭用100V電源、約6時間で満充電が可能

サスペンション

四輪独立懸架(Frマクファーンソン式、Rrトーションビーム式)
最小回転半径は3.2m

モーター

1モーターデフ付後輪駆動

- ・定格出力 0.6kw以下
- ・最高出力 5kw
- ・最大トルク 250N-m
- ・最高速度 60km/h

シャシ

スチール製のラダーフレーム構造(アンダーフレームはコの字断面、クロスメンバーは閉断面)

その他の超小型モビリティ



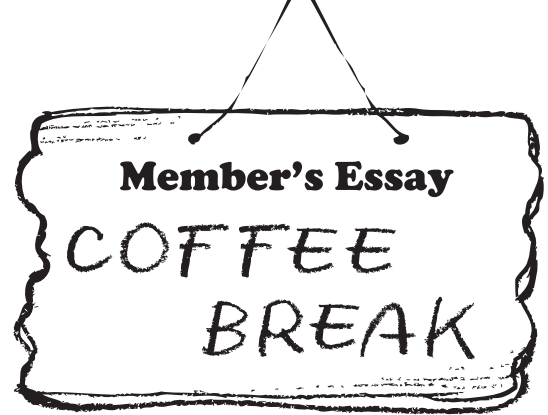
日産自動車
NISSAN
New Mobility
CONCEPT
横浜市内で実証実験中
最高速: 80km/h 航続距離: 100km
サイズ: 2340×1190×1450mm(全長×全幅×全高)
重量: 470kg リチウムイオンバッテリー



光岡自動車
Like(雷駆)T3
前1、後2輪の3輪駆動電動車(トライク)
最高速: 60km/h 航続距離: 40km
サイズ: 2485×1170×1075mm(全長×全幅×全高)
重量: 306kg リチウムイオンバッテリー



本田技研工業
マイクロコミューター
プロトタイプ
さいたま市内で実証実験中
最高速: 80km/h 航続距離: 60km程度
サイズ: 2500×1250×1445mm(全長×全幅×全高)
重量: 306kg リチウムイオンバッテリー



野球とともに

極東開発工業(株) 菊永 孝紀

気付くと野球チームへ所属して22年目のシーズンになる。隣町の小学校にある少年野球チームに所属して以来、現在社内の草野球チームに所属するまで、9チームに及ぶ野球歴だ。

物心ついた時はサッカー少年だった。来る日も来る日もグラウンドや公園を走り回り、擦り傷の絶えない子だったと思う。父親がグローブを買ってくれたから？ 近所のお兄ちゃんたちが野球をしていたから？ そんな理由だったか定かではないが、いつの間にか野球が生活の一部となり、今日まで続いている。

だからといって順風満帆ではなかったと思う。大きなケガでグラウンドを離れることも、また結果の出ない時期もあった。嫌いになったことも、辞めたいと思ったことも一度や二度ではない。振り返ると、良かった想い出も辛かった想い出も半々な気がする。なぜそれでも続けられたか問われると、たまたま運が良かっただけだとしか言いようがない。

そんな曖昧な気持ちの中、はっきりしていることもある。野球を通じて物事を見聞し、自身で考える力や価値観を養っていったこと。真摯な姿勢の大切さ、物事をやり遂げる粘り強さなど、少しずつではあるが磨いていったこと。今も続く友人の多くは、野球を通して出会った大切な仲間であり、凄く感謝していることだ。



月に1〜2回ほどの試合をこなす

現在は極東開発工業(株)横浜工場野球部に所属し、大和市野球連盟と戸塚区の早朝野球を中心に活動している。部員数約18名(幽霊部員を含む)で、月1〜2回の試合だけをこなす。珍プレーの応酬と、温かな野次と笑いに包まれている野球部である。ごく稀にビッグプレーの連続で優勝することもあり、強いのか弱いのかわからないのもチームの特長である。

目標も目的も随分様変わりしてしまったけど、今はこの場面をこのメンバーで大切にしたい。

たまたま運良く続いたことが、いつの間にか必然となったように。これからも野球とともに歩んでいくと思う。



スライディングの瞬間

ツーリング

日本トレクス(株) 田中 秀一

私の趣味はバイクでツーリングをすることです。自動車で行くよりもバイクでツーリングをするほうが快適ですが、なぜかバイクでの旅はやめられません。

ツーリングに行くときは大抵、まだ日も昇らないうちに大きな荷物を括り付けたバイクで走り出します。殆ど人影のない寝静まった町を抜け、まだ見ぬ景色を求めてスピードを上げる時の高揚感は何物にも替え難いです。やがて昇る太陽が景色をオレンジ色に染めるまではツーリングで最も好きな時間のひとつです。多くの人が動き始める時間までに距離を稼ぎ、朝食を摂るのは知らない町。綺麗な景色があれば好きなだけ眺め、気になった所があれば寄り道して、自由気ままに走ります。日常の生活から離れた別の世界を満喫します。



三重県伊勢志摩スカイラインにて

バイクという乗り物は、夏は猛烈に暑く冬は凍て付くように寒く、雨が降れば濡れになり季節や天候の変化を全身で受け止めなければいけません。こう書くとまるで修行のようですが、実際に似ているところもあるような気がします。冬に雨に降られたりするとまさに自分との闘いです。そして、そういった困難を乗り越えた先で



長野県諏訪大社にて

美しい景色を見たり、美味しい料理を食べたりしたとき心地よい疲労感と共になんとも言えない喜びに満たされます。便利で快適な旅には無い魅力です。

学生時代に初めて原付を手にしてから、本当に色々な所へツーリングに行きました。自動車を購入してからは買い物など日常の道具としてバイクを使うことは減りましたが、日常を離れる手段としてますますバイクは存在が大きくなったと思います。エアコンが効いて荷物を沢山積めて雨にも濡れない快適な旅は勿論楽しいですが、敢えて色々な制約があるなかで、工夫しながらそれらを乗り越えたり或いは受け入れたりしながらの旅も楽しく思い出に残るものです。やはりバイクでのツーリングはやめられません。



和歌山県那智大社にて

自転車通勤

泰平電機(株) 小林 敏光

三十台後半を迎え、メタボやら健康やらが気になり始めたので、健康とダイエットの為に自転車通勤を始めてからかれこれ1年半が経ちました。

電車通勤では乗り継ぎが悪く3回乗り換えて1時間15分の通勤時間だったのが自転車では片道13キロを45分で会社に着きます。満員電車に乗らずに済むので快適です。

最初は健康の為にだけに始めた自転車ですが、自転車いじりにもすっかりハマってしまい、お小遣いをやりくりしながらパーツ交換に励んでおります。いつか交換したパーツを

集めて、もう一台自転車を組んでしまうなんてことになりそうです。

当初の目的であるダイエットに関しては適度な運動のおかげか、以前よりお酒もご飯もおいしくなってしまう、体重は一年半前と殆ど変わらないという残念な結果になっています。まあ、おいしく食べて体重も維持できているのでとりあえずOKです。



愛車にまたがる筆者

本当なら週末も自転車でツーリング、と言いたいところですが、週末は家族サービスをしなければなりません。『一人で遊びに行きたい』なんて言うと子供たちからすごいブーイングを浴びるので、自転車に乗るのは専ら通勤だけで、週末は自転車いじりで気を紛らわせています。

なんとか家族に仲間を作ろうと頑張った結果、小学四年生の長男は思惑通り最近興味を持つようになり、今年の誕生日に新しい自転車を買ってもらったにも関わらず「ロードバイク欲しいなあ」と言っています。小学一年生の長女は最近やっと補助無し自転車に乗れるようになり、今は自転車に乗るのが楽しいようで、一緒に河川敷のサイクリングロードに遊びに行けるようになりました。

真夏や真冬の通勤はかなり苦行だったりもしますが、なんだかんだと楽しみながら通勤できるのは自転車通勤ならではの。今後も事故には気をつけて自転車通勤ライフを満喫していきたいと思えます。



パーツ交換を繰り返した愛車

三菱ふそうトラック・バス(株)
バスシャシー設計部
なかはま ひ さ こ
中濱 妃早子さん



設計したものが
形になる喜びが
やりがいです!

和光工業(株)
品質保証グループ
こまつ
小松 あすかさん



福祉社会に貢献
している仕事に誇り
を持っています!

Q1 どんなお仕事ですか。

バスの配管レイアウト業務を担当しています。エンジンやトランスミッション、ブレーキ機器などに繋がる配管を、部品の性能や、周辺部品との隙間、作業・整備のしやすさなどを考慮しながら経路を決める仕事です。

Q2 仕事で楽しいときは

自分の設計したものが形になったのを見る時です。またそれが、自分が考えていた通りの性能を満足したものに変わった時は、やりがいを感じます。

Q3 仕事でつらいこと

法規対応などで搭載する機器が増え、スペースが限られる中で、全ての設計要件を満たすのに苦労します。時には行き詰まってしまうこともあります。自分なりにちょっと視点を変えてみたり、先輩や同僚のアドバイスからヒントをもらったり、他部署の方の協力を得たりしながら、一つ一つクリアしています。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は?

試作車の製作に立ち合った際、現場の作業の方々に「これじゃ作業しづらいぞ。自分がやってみる!」と工具を渡され怒られたことがありました。図面を見ているだけではわからない、現場、現物の大切さを教わりました。その作業の方々はその後色々なアドバイスを下さり、そういう違う部署の方達との繋がりの中で多くの事を教えて頂きました。

Q5 御社のPRをしてください!

安全、環境、お客様のご要望、すべてを満足した車をつくるため、社員全員一丸となって取り組んでいます。

Q1 どんなお仕事ですか。

弊社は、自動車用搭載ジャッキ及び、福祉用・荷物用リフトの開発・製造・販売を行っております。私は、リフトのサービスパーツ出荷業務を担当しております。お客さまへの迅速な対応ができるよう心がけております。

Q2 仕事で楽しいときは

なんともいってもお客さまから感謝のお言葉をいただいた時です。お客様から「リフトの故障が直りました!」と喜びの声が聞けた時は、「ほんとうによかった」といった「嬉しさ」と「やりがい」を感じています。

Q3 仕事でつらいこと

お客様の希望納期に間に合わなかったことや、間違った品物を発送してしまった時です。特に福祉用リフトは、ご老人や身体の不自由な方々に送迎の手助けをする大事な装置ですので、大変なご迷惑をかけてしまうことになるからです。お客さまに満足していただけるよう日々努力して、良い仕事に心がけています。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は?

H.C.R(国際福祉機器展)にリフトを出展し、ブースの受付を担当した時のことです。弊社のリフトに対して直接意見を聞け、お客さまから喜びの表情や声を間近で感じることができ、改めて福祉社会に貢献している自分の仕事に誇りを持てたことです。

Q5 御社のPRをしてください!

弊社は、本年で創立57周年を迎えることができました。これもひとえにお客さまのおかげと感謝しております。これからもお客さまに信頼される良い商品をお届けするために、目配り、気配りしてお客さまに喜んでいただける仕事に取り組んでいきたいと思ひます。

DATA FLASH

2012年4月～9月 会員生産状況概要

※昨年は、東日本大震災が発生し、生産が激減したため、前年比較の数字はあまり意味がないため、2年前比較やリーマンショック前比較('08年)とする。

① 合計

- ・4月～9月の累計台数は対前年比35%増、'10年比較で5.2%増('08年比較で17%減まで回復)
- ・直近では、乗用小型商用の輸出向けの海外を含めた生産移管、軽の生産移管、エコカー補助金終了等で昨年10月以降12か月ぶりに前年同月割れとなった。

② 非量産車合計

- ・4～9月の累計台数は対前年比37%増、'10年比較でも31%増で、昨年の7月以降15か月連続の前年超え('08年比較で12%減まで回復)
- ・但し、直近の3か月をみると伸び代は減速傾向が顕著である。

③ 特装車

- ・4月～9月の累計対前年比は、3年連続で増加。リーマンショック前の'08年4月～9月比でも94%まで回復
- ・引き続き、復興関連車種(ダンプ車、ミキサ車等)が好調に推移している。

④ 特種車

- ・4月～9月の累計台数は、対前年比22%増、対'10年比でも33%増(共に警察用車両が増加)
- ・直近の3か月平均としてはリーマンショック以前の'08年並み(主要因は警察用車両の増加)

⑤ 平ボデートラック(除くシャシメーカー標準車)

- ・4月～9月の累計台数は、復興需要と補助金のため対前年比48%増で、リーマンショック前の'08年並み
- ・バンノトラック比率でトラック比率が増加中、特に多目的に使用できる「普通型あり(特にクレーン付)」が増加

⑥ バン

- ・4月～9月の累計で対'10年比で13%増、冷凍・保冷車は食品輸送が多く、比較的景気影響は少ない。
- ・直近の3か月をみると補助金終了以降、急減速している。

⑦ トレーラ

- ・4月～9月の累計台数は、対前年比で4.6%減(昨年の大震災の影響による減少がなく、昨年と比較)
- ・直近では主力であるバン・コンテナタイプで国内外の景気落ち込みにより、引き合いが減少中

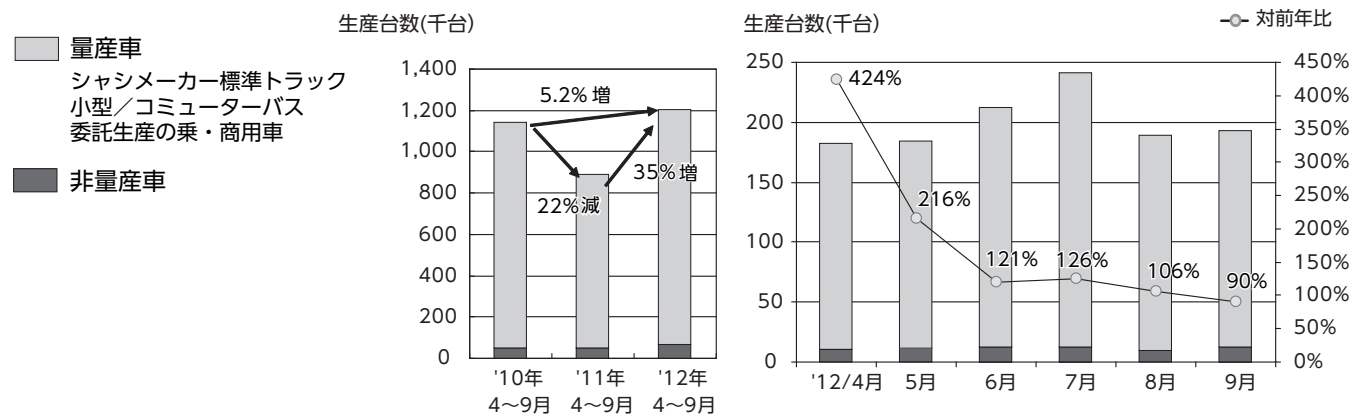
⑧ 大中型バス

- ・4月～9月の累計で対'10年比で17%減、対前年比で増加しているが絶対台数は少ない。
- ・6月以降は、座席法規規制前の特需の反動、及びエコカー補助金の終了で減少

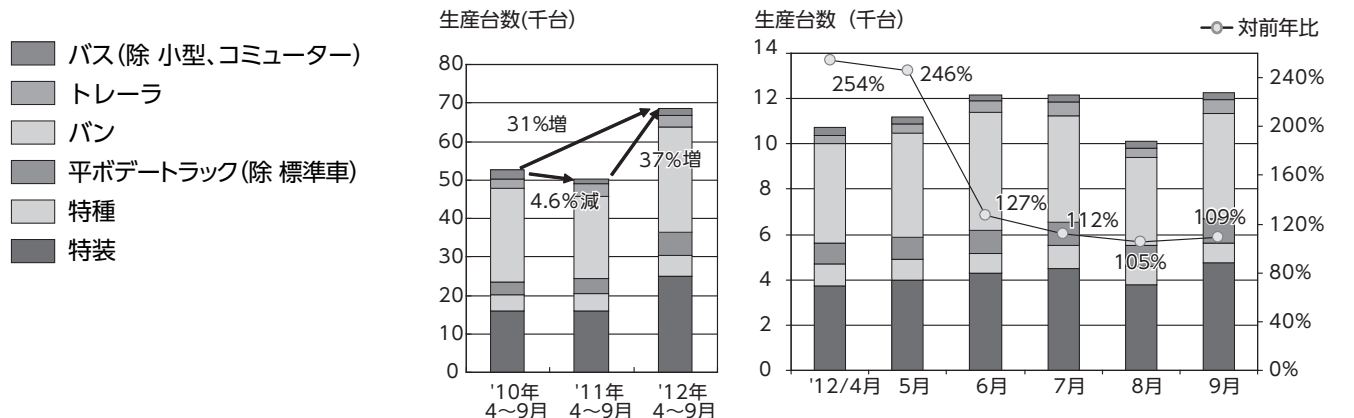
⑨ 小型車(小型部会員の委託生産の乗・商用車)

- ・4月～9月累計で対'10年比4.1%増となっている。
- ・直近の9月は、輸出向けの海外を含めた生産移管、軽の生産移管等で対前年同月比で減少

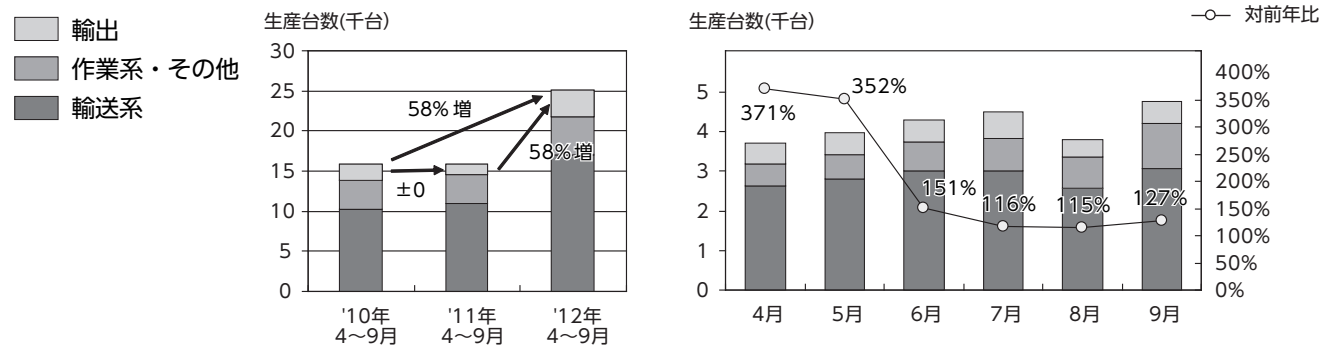
合計(非量産車+量産車)



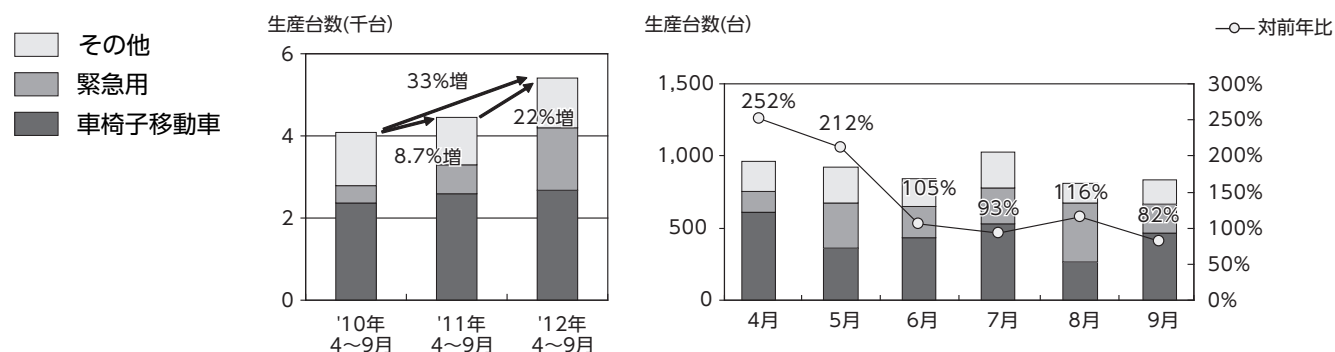
非量産車合計



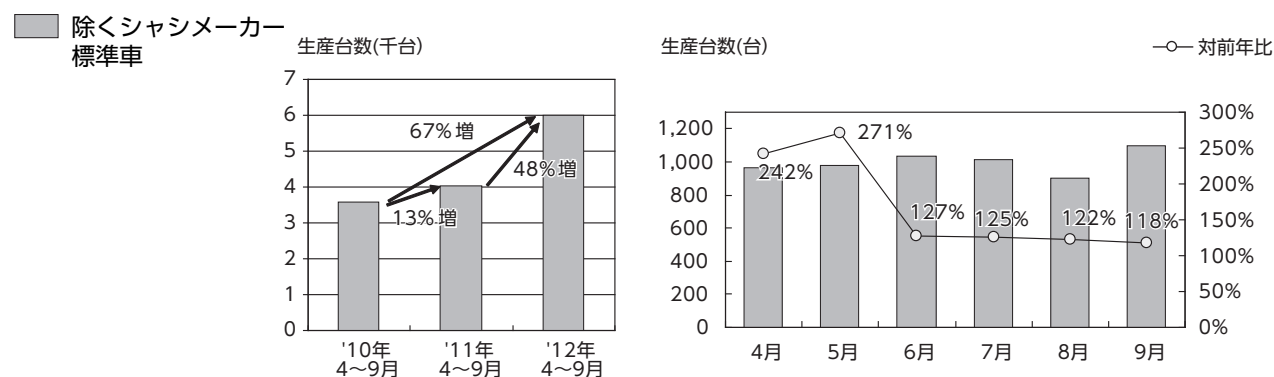
特装車



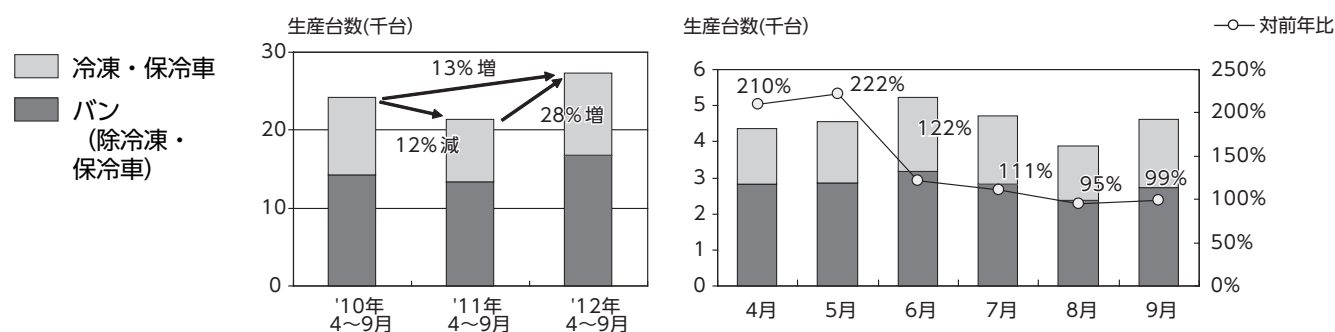
特種車



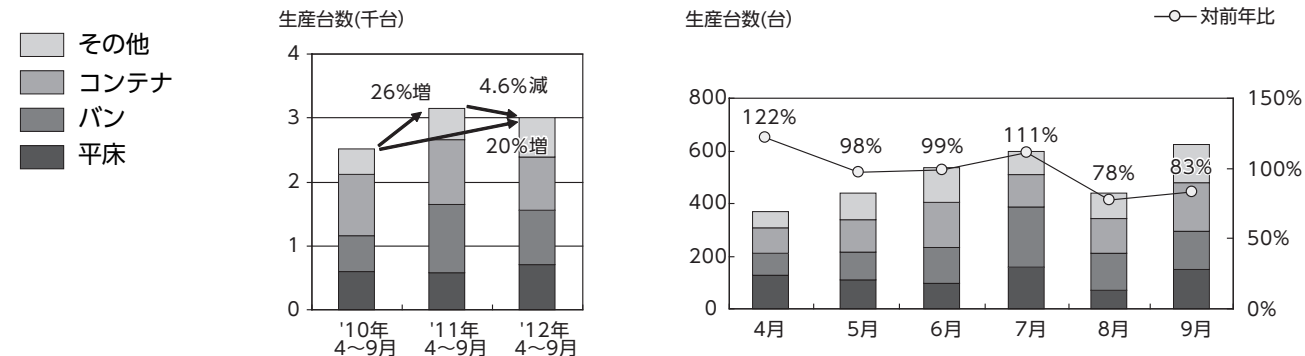
平ボデートラック



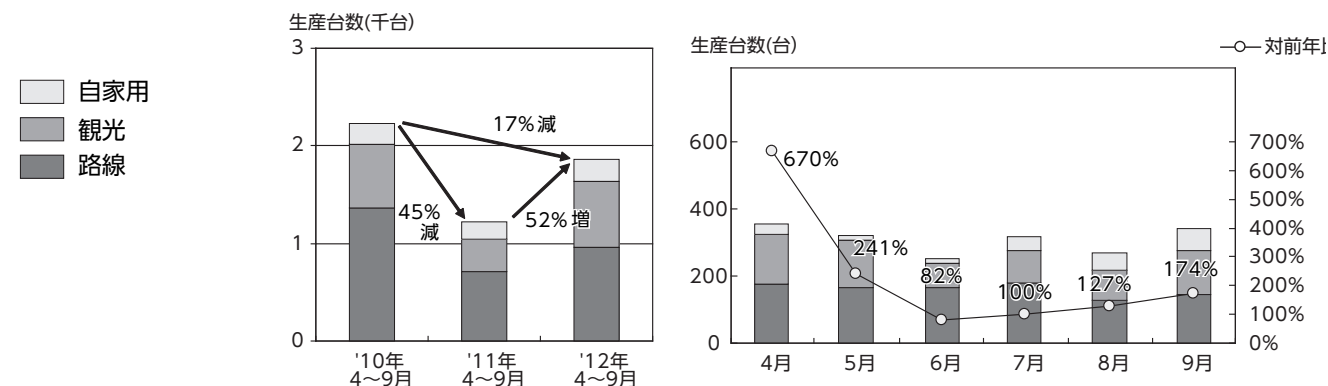
バン



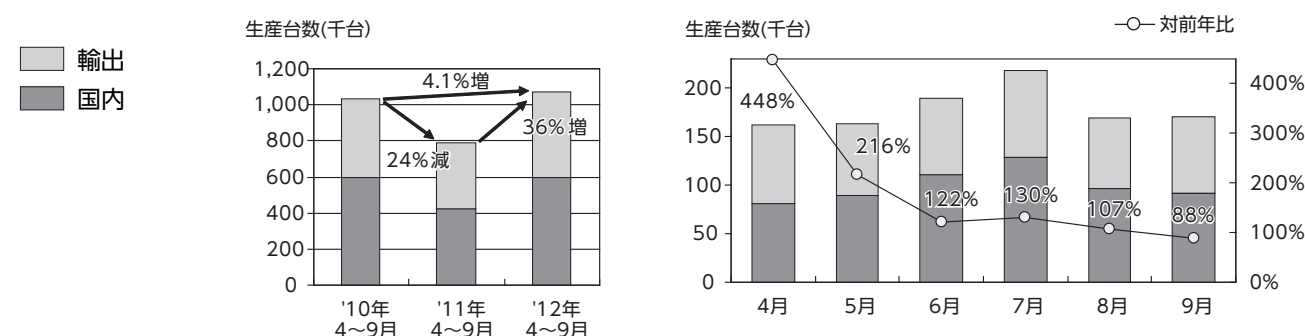
トレーラ



大中型バス



小型車(委託生産の乗・商用車)



車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動にともなう業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、生産台数データを当会ホームページに公開しておりますので、下記サイトをご覧ください。

<http://www.jabia.or.jp/data/index.php>



表紙写真について

レーシングサポート用 トレーラ

北海道車体(株)

全国各地のサーキット場でタイヤ等のレーシング状況データの収集／管理を行うための機器類を搭載したルーフアップ2階建て移動事務室式トレーラです。



編集後記

12月初旬に宇都宮市に行った折、猛暑で遅れていた紅葉がまだまだ見ごろだったが、なんと昼前からかなりのボタン雪。紅いもみじに白い雪はまさに絶景だったが、異常、異常という気象が続き、この先どうになってしまうのか？ 若干不安にもなる。しかしながら種苗メーカーでは猛暑に耐える野菜品種作りが急ピッチで進んでおり、近々市販化出来るとの話であり、温かい発熱下着、極めて高性能な省エネ断熱住宅等をみても、民間企業の変化への対応力には頼もしさを感じる。

今号の「そこが知りたい」は超小型モビリティについて掲載した。国交省から超小型モビリティ認定制度に関しパブコメが展開され、各地でトライアル導入が始まりそうである。狭い日本の国土、高齢化を考えると一定数の普及が望まれるが、既存の法制度ではまだまだ不合理な面が多く、これらをタイムリーに変更していくことが重要であろう。法制度が変更になった折は、あっという間に日本企業が世界一の超小型車を市販化してくれる…はずである。(橋本)

この会報「車体NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車検査(独)検査部・事務所、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

広告掲載会社

株式会社浜名ワークス表2
UR都市機構 P.41
住友スリーエム株式会社表3
交通エコロジー・モビリティ財団表4

広報委員紹介

くぼ あり
久保 有

三菱ふそうトラック・バス(株)
バス事業本部
バス販売部 マネージャー
(バス部会)

このたび、久垣秀仁氏(三菱ふそうトラック・バス(株))に変わり、新たに久保有氏がバス部会広報委員に就任しました。よろしくお願いいたします。



事務局員紹介

よしだ かずとし
吉田 量年

12月1日より事務局次長及び総務部長に就任いたしました。会員の皆様と心をつなぐに連携し頑張っております。どうぞよろしくお願いいたします。



なか い ひさあき
中居 壽明

10月22日からお世話になっております。トラック部会、バン部会、バス部会の事務局を担当致します。会員の皆様方のお役に立つよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。



車体NEWS

WINTER 2012 冬

2012年12月15日発行

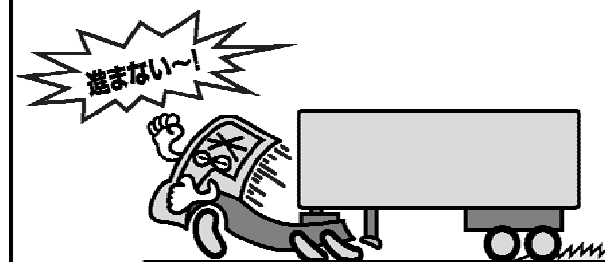
発行所 一般社団法人 日本自動車車体工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30
TEL.03-3578-1681 FAX.03-3578-1684

発行人 橋本 茂

トレーラのブレーキ・バルブ凍結による車両火災に注意

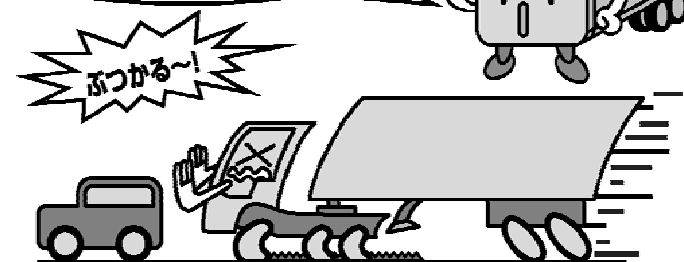
❄️ ❄️ ブレーキ機器の凍結に注意！ ❄️ ❄️

リレーピストン内部の 水分が凍ると…



トレーラのブレーキが
ききっぱなしになる

定期的なメンテナンスで
いつも「安心」「安全」運転を



トレーラのブレーキが
きかなくなる

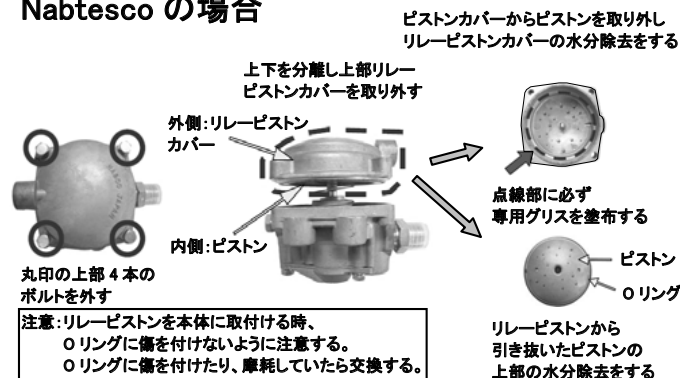
注意：厳冬期に入る前の日常点検でドレンが大量に出る場合は、トラクタのエア・ドライヤの点検整備を早めに行っておくことをお勧めします。

貴方は知っていますか？リレー・エマージェンシ・バルブは3ヶ月(メーカー指定)・12ヶ月(法定)点検項目になっている事を。ブレーキ機器が凍結するとブレーキが作動しない為、非常に危険な状態になります。特に冬期気温が氷点下にさがる地域においてはブレーキ・エア内に含まれた水分がリレー・エマージェンシ・バルブ等の内部で凍結し作動不良を起こす要因となります。凍結を防止するために、凝水(ドレン)の排出を励行すると共にサービス工場にてリレーバルブ等の内部とリレーピストン部の水分除去を行って下さい。

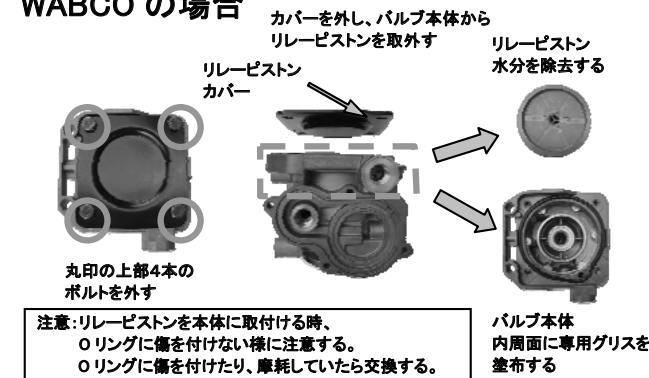
配管内の水除去及び水侵入防止のお願い

上記点検と同時にコントロール・ライン及びサプライ・ラインの配管内をエアブローして水を排出したりホース・カップリング部を外した時には常にキャップをする事で雨水の浸入防止にも効果があります。

Nabtesco の場合



WABCO の場合



専門的な技術や機械工具を要する点検・整備については専門のサービス工場を受けて下さい。

*詳細は日本自動車車体工業会のホームページ参照下さい。

ところで君、
URには聞いてみたのか？

事業用地の
ご相談ならUR。
理由があります。



総合案内窓口

0120-555-867

営業時間 9:15-17:40 (土日祝日除く)



URビジネス・ロケーション・サイト

事業用地はUR

検索

business.ur-net.go.jp

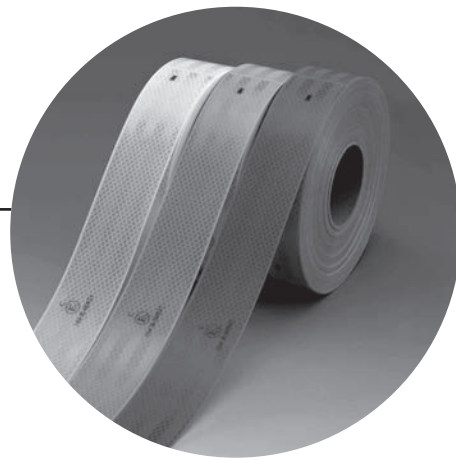
UR都市機構では、各種特装車の製造用地として適した画地を
茨城・埼玉・栃木をはじめ全国各地においてご案内しております。
ぜひこの機会にご検討ください。

2000社以上の企業をサポートしてきた信頼と実績。

事業用地は、UR。  UR都市機構

——— 街に、ルネッサンス ———

美しさと安全性の両立 Beauty & Safety スリーエムからの提案です。



スリーエムダイヤモンドグレード™
コンスピキュイティ反射シート

スリーエム反射シート680Eシリーズ

スコッチカル™ フィルム

コントロールタック™ プラスフィルム

夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング(線状再帰反射材、輪郭再帰反射材、特徴等表示再帰反射材)が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した(※Eマーク付)＜スリーエム＞ダイヤモンドグレードコンスピキュイティ反射シートと＜スリーエム＞反射シート680Eシリーズを提供しています。また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、＜スコッチカル＞フィルム、＜コントロールタック＞プラスフィルムおよび＜スコッチプリント＞グラフィックスを提供してきました。

トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。

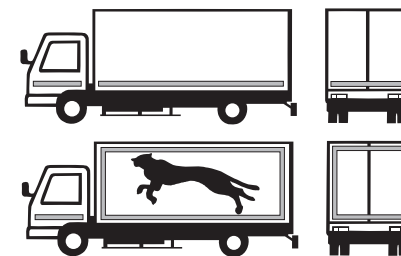
今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。

スリーエム™
ダイヤモンドグレード
コンスピキュイティ反射シート

入射光を光源方向にまっすぐ戻す、再帰反射性反射効果を備えたプリズムレンズ型反射シートです。ヘッドライトの光などで明るく輝き、自車の存在を相手に強くアピールします。

■おもな特徴

1. 従来品に比べ、反射効果が大幅にアップしています。
2. 広角性にすぐれ、カーブ時の見やすさも十分に確保できます。
3. 取り扱いが簡単です。裏面の透明フィルムをはがすだけで、多くの車体に直接貼ることができます。
4. 耐久期間は約7年です。(当社ガイドライン通りに貼付された場合)。



※Eマークとは:国連の車両等の相互承認協定規則(CE)R104の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入りの製品は「道路運送車両の保安基準」の細目を定める告示、別添105に定める技術基準に適合している製品でもあります。

事故減少に対するコンスピキュイティ反射シートの有効性に関わる研究報告

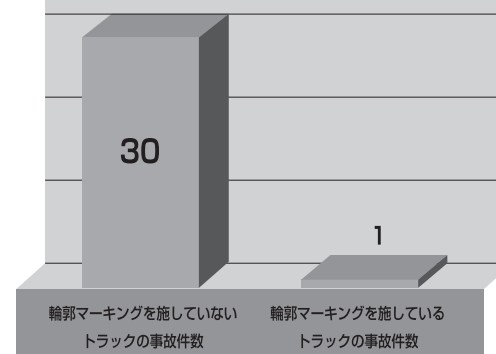
■ヨーロッパにおける研究報告

- 夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約40%が“みられやすさ”(コンスピキュイティ)不足により発生している。
- 再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約1/30だった。

■米国における研究報告

- 再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約30%減少させた。特に夜間では約40%減少させた。

■事故件数対比



◆ 住友スリーエム株式会社

交通安全システム事業部

本社 158-8583 東京都世田谷区玉川台 2-33-1

電話 (03) 3709-8357

URL : http://www.mmm.co.jp

3M